

令和 8 年度（2026 年度）

業 務 概 要



センター全景

長崎県立こども医療福祉センター

〒 8 5 4 - 0 0 7 1 諫早市永昌東町 2 4 - 3

T E L 0 9 5 7 - 2 2 - 1 3 0 0

F A X 0 9 5 7 - 2 3 - 2 6 1 4

基 本 理 念

- こどもの心とからだの発達の支援と治療を行います。
- 家族への子育て相談と支援を行います。
- 保健、医療、福祉、教育などの関係機関と連携し、
地域療育活動を支援します。

こどもの患者さんの権利

1. あなたの基本的人権を尊重します

私たち職員はあなたをかけがえのない一人の大切な存在として認めます。

2. あなたの個性、主体性を大切にします

私たち職員はありのままのあなたを大切にし、あなたが自信を持って成長したり自分の目標や夢を実現することができるように支援します。

3. 安全で安心できる入院生活環境を整えます

私たち職員はあなたが治療や回復にしっかり取り組むために、安全で安心できる入院生活を送れるようにします。

4. あなたの意見表明、自己決定を尊重します

私たち職員はあなたが自分の意見や要望を言うこと、治療や生活に支障がない限りの自分のことは自分で決めることを尊重します。

基 本 方 針

1. 障害を持つ子どもだけでなく、すべての子どもの成長・発達を支援し、個人個人がその人らしく生きることができる社会の実現に貢献する。
2. 子どもを抱える家族を医療と福祉の立場から支援し、地域社会からの孤立を防ぎ、よりよい環境で子どもが成長できるよう努める。
3. 患者さん、利用者さんと家族の意見をしっかりと聴き、お互いが信頼し合って対等な関係で目標に向かえる施設をめざす。
4. 虐待防止や医療安全に関する職員の意識を高め、患者さん、利用者さんと家族のみなさんが安心して気持ちよく利用できる施設をめざす。
5. それぞれの職員が自分の仕事に誇りを持ち、お互いを尊重して対等に議論しあえる職場、意欲的に活動できる職場をめざす。

はじめに

当センターは、昭和 29 年に県立整肢療育園として開設され、肢体不自由児および重症心身障害児に対する療育・訓練を基本とした、医療と福祉を担う施設としての歩みを開始しました。平成 13 年には、「こどもの心と体の発達支援」を基本理念とする包括的療育拠点施設「こども医療福祉センター」として新たにスタートし、小児科を診療科目に加えることで、神経発達症、心身症、不登校、神経筋疾患、てんかんなど、多様な子どもの診療に対応できる体制を整えてまいりました。こうした歩みを経て、当センターは地域の皆様に支えられながら今日に至っております。

一方で、近年発生した施設内における不適切な事案や事故につきましては、決してあってはならないものであり、重く受け止めております。現在、再発防止に向けて、職員一人ひとりの意識改革を徹底するとともに、虐待防止対策委員会の機能強化、安全管理体制および医療安全管理体制のさらなる充実、第三者の視点を取り入れた評価の実施など、組織を挙げて取り組んでいるところです。引き続き、利用される皆様とご家族が安心して過ごせる施設となるよう全力で努めてまいります。

当センターを取り巻く環境は時代とともに大きく変化しておりますが、地域において果たすべき役割の重要性は今も変わりません。今後も関係機関との連携を一層強化しながら、すべての子どもの成長と発達を支え、子どもたちが住み慣れた地域で安心してより良い生活を送ることができるよう、職員一同取り組んでまいります。

令和 8 年（2026 年）7 月

長崎県立こども医療福祉センター
所 長 小柳 憲司

目 次

I センターの概要

1	センターの業務と特色	1
2	施設概況等	1
3	施設基準等	2
4	沿 革	2
5	組 織	3
6	職種別職員数	3

II 入所・入院部門

1	実 績	4
2	担当スタッフ	4
3	業務内容	4
4	主な業務の特色	5
5	日課・年間行事	8

III 外来部門

1	実 績	10
2	担当スタッフ	10
3	業務内容	10
4	外来診療体制	10
5	主な業務の特色	11

IV 地域連携

		16
--	--	----

V 発達障害児（者）支援

		19
--	--	----

VI 栄養関係業務

		22
--	--	----

VII 薬局・検査・X線撮影

1	薬局業務	2 5
2	臨床検査業務	2 7
3	X線撮影業務	2 8

VIII 心理業務

IX 研究・実習等

1	研究発表・講演・著作等	3 1
2	実習受入	4 1

X 建物概要

資 料 編

(1)	入院患者数の推移	4 3
(2)	外来患者数の推移	4 3
(3)	入所・入院患者の病類別人員	4 4
(4)	入所・入院患者の在所期間別	4 4
(5)	入所・入院患者の年齢別	4 4
(6)	外来患者の病類別延人員	4 5
(7)	外来患者の出身地別延人員	4 5
(8)	手術実績	4 6
(9)	訓練指導件数	4 7
(10)	入所者の要介護の状況	4 7
(11)	障害児等療育支援事業（実績）	4 8
(12)	医療等従事者実習（実績）	4 8
(13)	令和7年度障害児（者）巡回療育相談実施状況	4 9

I センターの概要

1 センターの業務と特色

当センターは、長崎県立児童福祉施設条例に基づく障害児入所施設（医療型）であるとともに、医療法による病院です。

従来、施設の利用は児童福祉法による入所措置（行政による決定）を原則としていましたが、平成18年10月の障害者自立支援法（障害者総合支援法）の施行に伴い契約入所が原則となりました。

当センターの契約入所児数は年々減少し、それに代わって医療保険による入院あるいは外来の治療・訓練が主となってきています。また、肢体不自由児施設として整形外科を中心としてきましたが、平成13年度、小児科各科の増設により小児医療の充実を図り、すべての障害児を対象とした県下の拠点的な施設としての役割を担っています。

これに合わせ地域療育部門を設置し、当センターのスタッフを保育所、幼稚園、学校、児童発達支援事業所等へ派遣し、地域の療育活動及び体制整備への支援を行ってきました。平成23年度からは地域連携室を設置し、同室を中心に地域支援を強化しています。

その他、早期治療の一つとして1週間、2週間コースの親子入院、就学前の発達障害児を対象とした集団親子入院、障害のある子どもを持つ保護者に対する子育て支援などの療育支援活動を行っています。なお、入院・入所中の児童は、隣接する長崎県立諫早東特別支援学校で義務教育を受けることができます。

2 施設概況等

項 目	内 容
所 在 地	〒854-0071 長崎県諫早市永昌東町 24 番 3 号
病 床 数	60 床（一般 50 床、親子棟 10 床）
診 療 科 目	【常設診療科】 小児科(小児発達・小児神経・小児心療) 精神科、リハビリテーション科 【非常設診療科】 整形外科、歯科、泌尿器科、耳鼻咽喉科
敷 地 面 積	18,646 m ²
建 築 面 積	7,569 m ² （1 階：4,155 m ² 、2 階：3,137 m ² 、3 階：277 m ² ）
構 造	鉄筋コンクリート造り 3 階建て
駐 車 場	175 台
交 通 機 関	J R 諫早駅より徒歩約 7 分 県営・島鉄バス(諫早駅前ターミナル)停より徒歩約 6 分

3 施設基準等（令和 8 年 4 月 1 日現在）

① 15 歳未満

- ・小児入院医療管理料 3
- ・プレイルーム加算（保育士 2 名以上）

② 15 歳以上

- ・一般病棟入院基本料
- ・地域一般入院基本料（地域一般入院料 2）

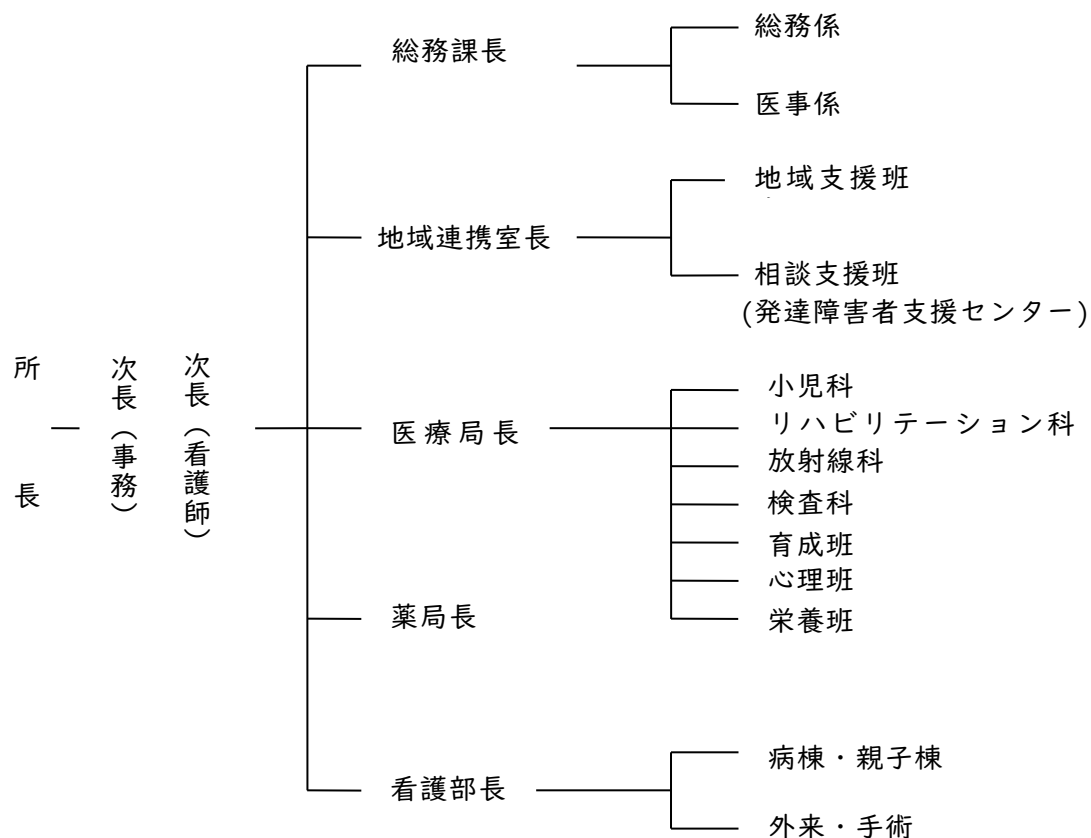
③ 共通

- ・医療安全対策加算 2
- ・重症者等療養環境特別加算
- ・療養環境加算
- ・初診料（歯科）の注 1 に掲げる基準
- ・入院時食事療養（Ⅰ）入院時生活療養（Ⅰ）
- ・脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・医療安全対策地域連携加算 2
- ・障害児（者）リハビリテーション料
- ・CT 撮影及び MRI 撮影 ※当センターは CT 撮影のみ

4 沿革

昭和 29 年 12 月 1 日	長崎県立整肢療育園開設(50 床)、21 日第 1 回入園式
昭和 34 年 5 月 1 日	病床数 50 床増床により 100 床
昭和 37 年 4 月 1 日	病床 60 床(うち母子棟 10 床)増床により 160 床
昭和 48 年 3 月 30 日	本館、第 1、第 2 病棟改築
昭和 57 年 4 月 1 日	島原通園部(島原温泉病院内)を設置
昭和 59 年 11 月 7 日	病床数 160 床を 110 床に変更
平成 13 年 4 月 1 日	「長崎県立こども医療福祉センター」に名称変更 病床数を 60 床(一般 50 床、親子棟 10 床)に変更
平成 13 年 9 月 30 日	島原通園部廃止
平成 17 年 7 月 20 日	新センター建物完成
平成 17 年 8 月 22 日	新センター業務開始
平成 23 年 4 月 1 日	地域連携室創設

5 組 織



6 職種別職員数（令和8年7月1日現在）

職 種	医 師	薬 剤 師	診療放射線技師	臨床検査技師	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	看護 師	社会 福祉	社 福 (心 理)	保 健 師	保 育 士	管 理 栄 養 士	調 理 員	一 般 事 務	相 談 支 援 等	運 転 士	庁 舎 管 理	計
人 員	6	1	1	1	(1) 6	7	5	(4) 35	5	(2) 4	1	11	2	(6) 3	(3) 6	(4)	1	(1)	(21) 95

()は非常勤（会計年度任用職員）で外数

Ⅱ 入所・入院部門

医療型障害児入所施設として、治療・訓練・生活指導など医療や育成の面で援助を行っています。また、不登校や概日リズム睡眠障害・覚醒、起立性調節障害、摂食障害などの小児科疾患についても入院治療を行っています。なお、義務教育は隣接する諫早東特別支援学校（小学部・中学部）に通学できます。近年は児童相談所との連携により、一時保護児童の保護委託、入院治療なども積極的に行っています。

Ⅰ 実績

令和7年度の入院延人員は7,599人で、実人員は601人でした。そのうち県外からの入院児は31人でした。

○令和7年度 出身地別入院実人員

出身地	実人員	出身地	実人員	出身地	実人員
長崎市	85	西彼杵郡	23	福岡県	8
佐世保市	12	東彼杵郡	9	佐賀県	19
島原市	37	北松浦郡	3	熊本県	0
諫早市	156	南松浦郡	9	大分県	0
大村市	100			宮崎県	0
平戸市	15			鹿児島県	0
松浦市	7			沖縄県	0
対馬市	1			九州以外	4
壱岐市	2				
五島市	19			他県計	31
西海市	9				
雲仙市	40				
南島原市	43				
市部計	526	郡部計	44	合計	601

2 担当スタッフ ※他部門との重複を含む

医師：6名、薬剤師：1名、診療放射線技師：1名、臨床検査技師：1名、理学療法士：7名

作業療法士：7名、言語聴覚士：5名、看護師：28名、保育士：8名、児童指導員：2名

心理士：6名、管理栄養士：2名、調理員：8名（令和8年7月現在）

3 業務内容

診察、治療、看護、理学療法、作業療法、言語聴覚療法（摂食指導を含む）、日常生活指導、学習指導、避難訓練、家庭との連絡、保育、評価、検査、福祉制度説明、プレイセラピー、カウンセリング（保護者）など。

4 主な業務の特色

(1) T. O. P. S. S

隣接する諫早東特別支援学校の自立活動の時間において、専門的な立場から指導目標、指導内容、指導方法等に関する指導助言を行っています。この名称を「T. O. P. S. S (トッПС)」(※ Teacher, OT, PT, ST, Student の略称)と呼び、カンファレンスなどで共通の目標を設定し、情報交換を密に行うことで療育の効果をあげています。

理学療法士は年間を通じて火曜日・金曜日の 10:30～12:15、作業療法士及び言語聴覚士は学校の依頼に応じて参加しています。

○令和7年度支援実績

理学療法 支援 35回

(2) 親子入院

発達に不安を抱えるお子様と保護者の方が一緒に入院し、豊かな親子関係を育んで発達を促すための入院です。入院時にお子様の発達特性や状態に合わせた療育目標を立てます。療育目標を基に毎日の日課を通じて、専門スタッフが家庭での日常生活に沿った具体的な支援・アドバイスをを行います。

また、お子様の育児について不安な事など、専門スタッフが相談をお受けいたします。一緒に入院した保護者様同士でお話をしたり、年長児の保護者様から経験談を聞いたりすることも皆様の力になることと思います。

親子入院には、肢体不自由児を中心とした「らっこ入院」と発達障害児を対象とした「めだか入院」があります。

〔目 的〕

- ・こどもが理学療法、作業療法などを集中して受ける。
- ・こどもの成長・発達のために自宅で行う練習方法を知る。
- ・親子棟に入院している他の親子との交流。

〔開催時期〕

- ・らっこ入院：通年（1週間・2週間コースあり）
- ・めだか入院：年6回（1週間）

〔対 象 児〕

- ・らっこ入院：発達に不安のある未就学児とその保護者。乳幼児から小学校2年生(継続)まで。
- ・めだか入院：発達に不安のある未就学児とその保護者。者年少児から年長児まで「落ち着きがない」「集団に馴染めない」「食事や着替えの日常生活が難しい」等の問題や課題を抱える親子。

人員 \ 年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
利用延人員(人)	104	97	106	110	90	101
実人員(人)	48	48	53	88	42	46

(3) 療育入院

主として発達障害児を対象とし、日帰りとし泊2日入院があります。療育入院は、心理発達検査、作業療法評価、言語評価の中から組み合わせて行っていますが、理学療法評価が加わる場合もあります。評価の結果から今後の支援や対応につないでいます。

人員 \ 年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
利用延人員(人)	310	295	299	318	315	245
うち日帰り	304	288	291	311	312	231
うち1泊2日	6	7	7	7	3	14
(特例) 2泊3日						

(4) 短期入所(ショートステイ)

障害のある児童及び身体障害者を介護している家族が、レスパイトやきょうだいの行事等への参加、通院などのために家庭で介護することが一時的に困難になった場合に、当センターをショートステイ施設として利用していただいています。

ショートステイを初めて利用する場合は、利用前に小児科受診を勧め、ショートステイ当日は、医師の健康チェックを行っています。また、家族からの情報(注意事項・要望)を得、医師・看護師・保育士等で共有し関わっています。

利用は、重症心身障害児が多いため、対象児の安全に心がけ、看護師・保育士が協力して対応しています。

区 分		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
利用実人員(人)		9	13	21	30	28	25
延べ日数(日)		47	71	179	337	347	244
利用期間	日 帰 り(回)	21	4	7	8	5	5
	1 泊 2 日(回)	42	16	39	37	61	55
	3 日 以上(回)	39	9	23	60	55	39
利用回数	1 回(人)	7	4	9	6	9	7
	2 回(人)	3	6	3	9	4	5
	3 回 以上(人)	10	3	9	15	15	13

(5) 病棟・親子棟の看護

看護部では、「私たちは、専門職としての資質を高め、センター内外の関係職種と連携し、その子らしく成長発達できるように支援します。」という理念のもとに看護を提供しています。

看護の提供方式は、固定チームナースング方式で、1年間、看護部目標、病棟目標と連動してチーム目標を立てて取り組んでいます。現状の問題点を分析し、実現可能な目標を設定し、課題達成に向けて看護活動を実施しています。技術の伝承ができるように、小集団活動として取り組み、看護実践にいかしています。年度末にはチーム活動報告会を行い、看護研究に発展させています。

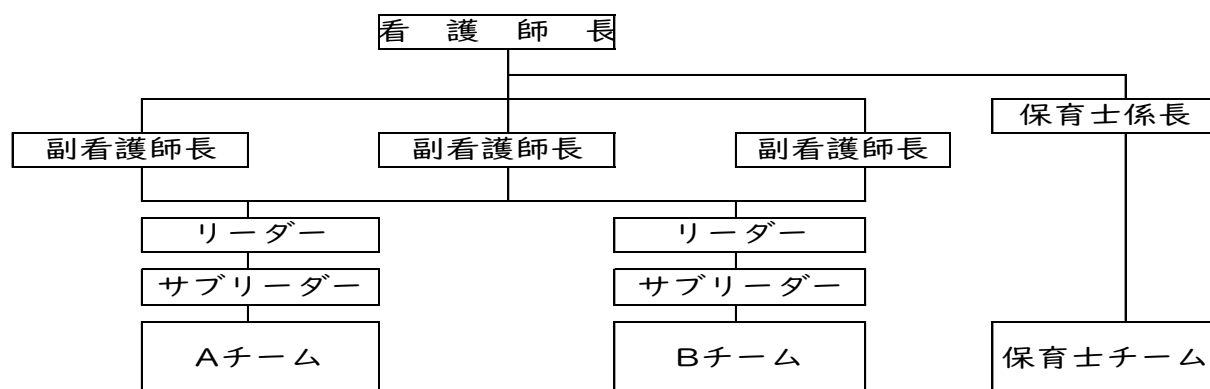
病棟では、看護師と保育士の協働で、入院・入所児の食事や入浴など日常生活や余暇活動の支援にあたっています。多職種での毎朝の申し送りや週に1回の合同カンファランスを行い、情報を共有し、効果的な支援が実践できるよう努めています。

また、入院中の就学児童は、隣接する諫早東特別支援学校で教育を受けています。同校の教員とは、日々の引継ぎや整形カンファランス、小児カンファランスで情報を共有し、連携を図っています。

【チームの特性】

区分	対 象 児	入院・入所児の状態
Aチーム	①手術やリハビリを目的に入院・入所する児(者) ②ショートステイ ③肢体不自由児や医療的ケア児とその保護者 ④療育が必要な発達障害児とその保護者	①介護度が高い ②言語的コミュニケーションの障害を持っている児がいる。 ③危険認知が乏しい児がいる。 ④保護者同伴のリハビリ入院 入院期間は1又は2週間 ⑤発達の評価を目的とした評価入院 入院期間は日帰りまたは1泊2日
Bチーム	①小児心療科の児 ②てんかんの検査・治療を目的とする児 ③医療的ケアが必要な児(者)	①日常生活の自立度が高い ②入院期間は、1泊2日～1週間の検査入院。内服調整入院。また心療では、数ヶ月～1年に及ぶ児もいる ③介護度が高い

【チーム編成】



【勤務体制】

区 分		月	火	水	木	金	土	日
早出(6:15～15:00)	保育士	2	2	1	2	1	1	1
早出(7:00～15:45)	看護師			1		1		
日勤(8:45～17:30)	看護師	5～9	5～9	5～9	5～9	5～9	1	1
日勤(8:45～17:30)	保育士	3～4	3～4	3～4	3～4	3～4		
ロング(8:45～18:30)	看護師	3	3	3	3	3	3	3
遅出(12:30～21:15)	看護師	1	1	1	1	1		
	保育士	2	2	2	2	1	1	2
夜勤(17:00～9:30)	看護師	3	3	3	3	3	3	3

(6) 生活支援

それぞれの能力や目的に応じた身辺自立と、社会性や協調性を身につけ楽しく集団生活を送ることができるように、看護師と保育士が協力して支援を行っています。

5 日課・年間行事

①日課表

日課

起床・排泄・更衣・洗面	6 : 3 0
朝食準備	7 : 1 0
朝食	7 : 3 0
登校（授業）	8 : 2 0
幼児保育 10:30～11:15	}
検温・昼食(センター)	1 2 : 2 0
歯磨き・登校	1 3 : 0 5
下校	1 4 : 0 0
入浴・リハビリ・	}
余暇活動・おやつ	1 5 : 0 0
夕食準備	1 7 : 2 5
夕食	1 8 : 0 0
歯磨き	1 9 : 0 0
学習、余暇活動	}
	2 0 : 0 0
就寝準備	2 0 : 3 0
消灯	2 1 : 0 0

②主な年間行事（＊学校と共催）

5月（＊療育運動会）、7月（夏祭り）、11月（秋のレクリエーション）、
12月（クリスマス会）、2月（エール会）、
その他：避難訓練（毎月：第4水曜日）、ブラッシング（毎月：第1・2月曜日歯科衛生士来所）

■所内での生活等

看護師、保育士、児童指導員が看護と日常生活を通じた療育（治療と育成）を行います。

また、夏祭り、クリスマス会などの諸行事により、集団生活を通して社会性を養います。

夏祭りのようす



クリスマス会のようす



節分のようす



卒業を祝う会のようす



Ⅲ 外来部門

発達に障害を持っている児、心の問題を抱えた児などを対象に、医療、各種機能訓練、集団療育、心理療法、幼児保育、療育相談などを行っています。診療科目は小児科（小児神経・小児発達・小児心療）、リハビリテーション科に加えて、非常設科として、整形外科、小児歯科、耳鼻咽喉科、泌尿器科の診療を行っています。

Ⅰ 実績

令和7年度の外来患者数は、のべ30,388人。1日平均患者数は、個別訓練や集団療育を含めると125.1人/日。また、小児科診察で新患、再診の多い曜日には、180人/日の外来者があります。言語の遅れや落ち着きがない等の小児発達や不登校などの小児心療科を受診する児は、増加しており、巡回療育相談や健診、地域の小児科からの紹介、保育所や学校からの紹介が増えています。

はじめての受診後は、当センターや地域での療育につなげています。

また、専門医がいない地域などには出向いて診療を行っており、令和7年度は諫早総合病院、五島中央病院、上五島病院、対馬病院、平戸市民病院、長崎大学病院小児科、長崎子ども・女性・障害者支援センター、佐々町立診療所となっています。

Ⅱ 担当スタッフ ※他部門との重複を含む

医師：6名、薬剤師：1名、診療放射線技師：1名、臨床検査技師：1名、理学療法士：7名
作業療法士：7名、言語聴覚士：5名、看護師：7名、保育士：3名、児童指導員：2名
心理士：6名、管理栄養士：2名、調理員：8名

（令和8年7月現在）

Ⅲ 業務内容

診察、治療、看護、理学療法、作業療法、言語聴覚療法、療育相談及び指導、栄養指導や摂食指導、幼児保育や療育、検査、福祉制度説明、プレイセラピー、ペアレントトレーニング等

Ⅳ 外来診療体制

以下の体制で、予約制を取り診療しています。診療は発達状況や障害の評価が必要に応じて行われます。

常設科	小児発達・神経・心療：月～金曜日（新患は月・火・水・木の主に午前中）
非常設科	小児整形外科：火・水・金曜日 障害児歯科：月・火曜日 耳鼻咽喉科：第2木曜日 午後 泌尿器科：第1・4木曜日 午後
診察時間	9：00～17：00
休診日	土・日・祝日

5 主な業務の特色

1) 幼児保育

〔趣旨〕

医師をはじめ、多職種との連携のもとに発達段階に応じた保育を行い、子どもの持つ能力を引き出すとともに、集団への適応力を育て、地域の保育所や幼稚園への就園、通所支援事業所等利用へとつなぐことを目指します。

〔目的〕

- 「遊び」を通じて様々な発達を促します。
- 基本的生活習慣の自立を目指します。
- 保護者の保育への参加を通して、子どもへの関わりについて支援します。
- 地域の保育所、幼稚園へ入所する前段階と考え、集団への適応を促します。
- 保護者間の交流を深め、育児の不安や悩みを話す場を設定します。

病棟児・・・個々に応じて遊び方を工夫し、関わる職種間で連携・協力し、術後の回復やリハビリに取り組めるように支援します。

親子入院・・・（リハビリ、ハンドリングが目的の入院）

入院目的に応じた観察およびアプローチを行います。保護者に対して、家庭での遊び方や関わり方を支援します。

外来児・・・個々のケースを観察し、発達段階に応じたアプローチを行います。親子保育を通して、保護者の子どもへの関わり方を支援します。地域の児童発達支援の利用や幼稚園・保育園の就園に向けて、集団への適応を促します。

〔対象〕

- 医師が幼児保育の必要性を認めた児
- 外来児については、保育所・幼稚園に就園していない児

〔その他〕

- ・保護者勉強会・・・子育てに関する知識を得る機会を設定します。
- ・園への技術支援・・・就園後、保護者や園の依頼に応じて園支援を行います。就園先の職員の訪問・見学を受け入れ、相互理解を深めます。

〔実績〕

区 分		3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	
外来		実人員	11	9	6	7	6
		延人員	191	124	89	128	124
病棟		実人員	13	20	10	15	10
		延人員	370	477	186	383	290
親子棟	らっこ	実人員	38	40	35	33	37
		延人員	410	435	351	351	324
	めだか	実人員	11	10	6	5	7
		延人員	62	51	32	32	54
合計		実人員	73	79	57	60	60
		延人員	1,033	1,087	658	894	792

2) 集団療育

自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症、限局性学習症、発達性協調運動症、知的発達症などの子ども達に対してグループでの活動を実施します。

〔目的〕

- ① 子ども達の全体的な発達を促し、将来家庭や地域の中での自立・適応を目指します。
- ② グループ活動を通し、対人意識・対人関係能力を高め集団生活への適応を促します。
- ③ 保護者が子ども達の特性や適切な対応方法を学ぶための支援を行います。
- ④ 関係機関訪問支援を通して園や学校と連携し、子ども達への相互理解を深めます。

〔対象〕

対人面、行動面、認知面などの発達特性により、集団適応に困難さがある幼児から小学生のうち、医師が集団療育を必要と認めた方です。

・午前グループ：超早期(初診受付時、3才未満)、超早期フォローアップ、

幼児（年齢と特性に応じたグループ）

・午後グループ：幼児、学齡児

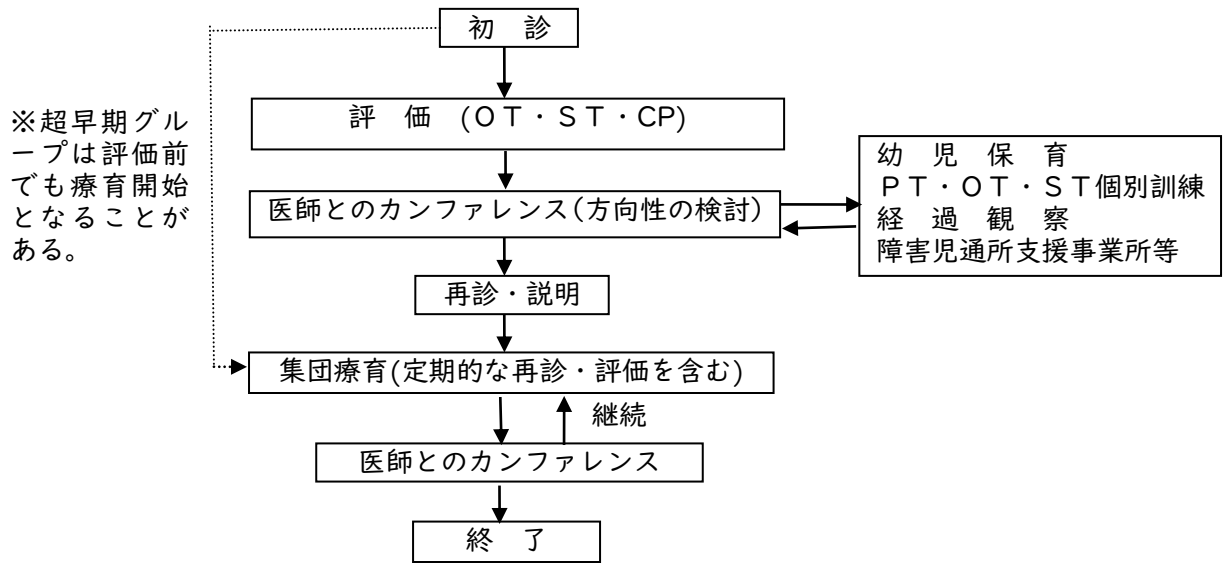
〔頻度〕

・月2回～月4回（対象児による）

〔内容〕

- ・小集団活動の中で子どもの状態に応じた課題や遊びを通して、対人意識やコミュニケーション能力を高め、ソーシャルスキルを学ぶ場を提供します。
- ・得意な活動とともに、苦手な活動にもチャレンジできるような場面設定や対応の仕方を工夫し、自信をつけられるように支援します。
- ・家庭や園・学校での様子を把握し、療育活動と関連づけ、保護者が療育及び子どもへの理解を深められるように支援します。また、言語、運動、遊び、日常生活動作、就学、福祉制度などについて専門職種による保護者勉強会を実施します。
- ・子どもが所属する園や学校などを訪問、支援するとともに、必要に応じて保護者によるサポートブック作成を援助し、地域で安心して生活するための一助とします。

《集団療育の流れ》



○療育登録者及び参加人数の推移(年度)

区 分	3年	4年	5年	6年	7年
登録者数	75	62	55	60	39
参加実人員	73	62	55	59	39
参加延人数	941	965	820	859	550

○関係機関訪問実績(年度)

箇所／年度	3年	4年	5年	6年	7年
幼稚園	0	3	0	3	1
保育所(園)	9	6	8	8	11
こども園	1	0	0	0	0
小学校	8	8	3	3	5

○令和7年度学年別・居住地別登録者数

未満児	28
年少	0
年中	0
年長	4
1年	3
2年	0
3年	0
4年	0
5年	1
6年	3

諫早市	18
大村市	15
長崎市	3
島原市	1
西彼杵郡	2

3) 外来の看護

外来は、前述の看護部の理念をもとに看護を提供し、児(者)への援助の充実を図っています。

外来では、診察・治療・検査時の介助をはじめ、次回の外来予約（診療・処置・検査等）や入院予約時の対応など医師・療法士・心理士・検査技師・診療放射線技師・病棟看護師等の多職種と連携を図りながら援助しています。

また、保護者支援として保健師・社会福祉士・保育士と連携を図り、地域での援助につなげています。外来で処置がある場合は、こどもや対象者の発達や特性に合わせた支援や声掛けを行っています。

○外来・中材業務

外来	診療の介助 リハビリ前の診察介助 診療後の再診予約受付と調整 入院の受付 こどもの状況・心療に関する相談 処置介助 診療材料管理
中材	中材業務

4) 外来訓練

(1) 理学療法

〔目的〕

主に運動発達の遅れや運動障害のある子どもに対して、遊びや生活に必要な粗大運動能力（寝返る・起き上がるなどの姿勢変換能力、座る・立つなど姿勢保持能力、這う・歩くなどの移動能力）の向上を目指した治療や運動を行います。

重い運動障害を持つ子どもに対しては、日常生活を快適に過ごせるように、全身状態の改善・変形予防などの姿勢ケアを目指し治療を行います。また、家庭や学校などでの生活を快適・容易にするために、能力に適した椅子や車椅子・歩行器などの製作をお手伝いします。

〔対象〕

新生児から成人までと年齢は幅広く、中でも乳幼児から中学生までが多い。主な疾患は脳性麻痺、運動発達遅滞、脳炎後遺症、染色体異常、二分脊椎、脊柱側弯、骨形成不全症、発達性協調運動症、その他整形疾患などです。

〔スケジュール〕

・個別 月曜日から金曜日の9:10～17:20で予約制

(2) 作業療法

〔目的〕

発達段階において何らかの困難さ・苦手さがある子ども達に対し、遊びを中心とした作業活動を通して、個々の子どもの発達課題や生活を考慮した治療を行います。また、障害があっても家庭や学校、社会で生き生きと生活できるよう援助を行います。

〔対象〕

乳幼児から学齢児までの自閉スペクトラム症・限局性学習症・注意欠如多動症・発達性協調運動症等の発達障害児、知的発達症、染色体異常・脳性麻痺・脳炎後遺症などの肢体不自由児。

〔スケジュール〕

・個別 月曜日から金曜日の9:10～17:20で予約制

（３）言語聴覚療法

〔目的〕

コミュニケーションや、摂食・嚥下機能に何らかの困難さや苦手さがある子どもたちに対し、コミュニケーション手段の獲得、言語能力の向上、安全な摂食・嚥下機能の獲得を目的として、評価、訓練、助言等の援助を行います。

〔対象〕

乳幼児から学齢児までの自閉スペクトラム症・限局性学習症等の発達障害児、言語症・語音症などのコミュニケーション症、染色体異常・脳性麻痺・脳炎後遺症などの肢体不自由児、聴覚障害。

〔スケジュール〕

・個別 月曜日から金曜日の９：１０～１７：２０で予約制

Ⅳ 地域連携

当センターは県内の療育支援の中核的役割を担う施設として、体制の充実・強化および地域支援を「障害児等療育支援事業」として実施してきました。

平成２３年度に地域連携室を新設し、従来の地域との連携や支援を充実させ、相談窓口および外来・リハビリ予約業務等を一元化し、利用者へのサービス向上を目指しています。

※当センターにおける「障害児等療育支援事業」は在宅の障害児（者）の地域での生活を支えるため、療育拠点施設としての当センターの機能を活用して、療育支援体制の充実を図り、身近な地域で安心して暮らすための福祉の向上を目的としています。

１ 訪問による支援（訪問療育相談支援事業）

① 巡回療育相談（実績一覧は資料編参照）

県立保健所や市町と連携しながら、当センターのスタッフが班を編成して、各保健所管内を巡回や家庭訪問により療育相談を行います。この相談の中で、当センター機能（外来受診、親子入院等）の紹介や地域の社会資源（医療機関、児童発達支援事業所、保育所・幼稚園、学校等）との連携をとることで、障害児の地域生活を支援します。

○実施回数：１８回（延べ３２日） 相談延べ件数１４０件

※この巡回療育相談の機会を利用し、地域で療育に携わる保健師・保育士等の療育関係者や保護者への研修会も開催しています。

② 関係機関訪問

当センターの療育を利用する児童が通う幼稚園・保育所・学校等を担当スタッフが訪問し、日常生活の様子を知ることにより、児童を取り巻く関係者と課題を共有し、当センターでの療育と地域での生活が一貫した支援の中で行われるよう取り組んでいます。

○訪問回数：１８回（訪問先：学校５、幼稚園・保育所・こども園１２、事業所１）

○派遣職種：保育士２６名

２ 外来療育等相談

外来時等に保護者や関係機関等から福祉制度、社会資源に関することや療育に関する相談などに応じています。

○相談対応：６３９件

３ 地域生活支援（地域生活特別支援事業）

専門性が高く、市町での対応が困難な事例については、市町の求めに応じ、当センターの専門機能を生かした支援を行います。

○実績：２７件（要保護児童地域対策協議会個別ケース検討会等出席）

4 県内の療育機関との連携や地域療育に関する啓発（地域療育支援事業）

①県内の診療・療育体制についての課題、連携のための方策等の協議

会 議 名	実 施 日	参 加 機 関
こどもセンター等関係機関連絡会	R8.3.10	オンライン形式で開催 長崎市障害福祉センター、佐世保市子ども未来部子ども発達センター、長崎県障害福祉課、こども医療福祉センター 4 機関 12 名
児童発達支援センター等連絡会	R7.9.22	集合形式で開催 児童発達支援センター（16 機関）、事業所（2 機関）、長崎市障害福祉課、佐世保市障がい福祉課、長崎県医療的ケア児支援センターつなぐ、長崎県発達障害者支援センターしおさい、長崎県こども家庭課、長崎県障害福祉課、こども医療福祉センター 25 機関 47 名

②地域療育関係機関の従事者への研修及び実習

研 修 ・ 実 習 名	対 象 者	実 施 日	参 加 者 数(延べ)
地域療育従事者等研修会	県・市町保健師等、障害児通園事業スタッフ	① R7.10.30～31 「小児発達編」 ② R7.11.26～27 「肢体不自由児編」	① 83 人 ② 26 人
地域療育短期実習	指導員、保育士、幼稚園教諭等	集団療育コース 12回 13日 幼児保育コース 3回 3日	33 人 4 人
障害児療育関係実習	障害児療育関係者（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、指導員、保育士、その他）	集団療育見学実習 延べ 8 日	16 人

5 施設等への技術支援

支 援 内 容	支援対象	派遣職種・職員数(延)
関係機関への技術支援	学校 2 回 保育所・幼稚園 0 回 計 2 回	派遣職員：理学療法士 0 名 作業療法士 2 名 言語聴覚士 2 名 計 4 名
(うち受診前技術支援)	〔学校 0 回 保育所・幼稚園 0 回 計 0 回〕	〔 0 名 〕
リハ・集団療育実施場面の見学受け入れ	学校 71 回 保育所・幼稚園 10 回 施設・事業所 62 回 計 143 回	対応職員：理学療法士 105 名 作業療法士 17 名 言語聴覚士 16 名 保育士 5 名 計 143 名
研修会への講師派遣	社会福祉協議会 1 回 学校 1 回 事業所 0 回 市町 0 回 計 2 回	派遣職員：心理士 0 名 保育士 1 名 理学療法士 1 名 計 2 名
	合計 147 回	合計 149 名

6 児童発達支援センター等機能強化事業

- ① 地域の中核となる児童発達支援センター職員の療育スキルの向上を目的とした技術支援や研修等を実施します。
- ② 療育機関や医療機関など発達支援の資源が少ない県北圏域、離島地区の療育スキル向上のため、技術支援や研修、および園訪問への同行支援を実施します。
- ③ 療育に関わる職員の療育スキル向上、事業所間の連携を図る場（こども支援会議等の地域のネットワーク）の構築への協力、アドバイザー参加、講師派遣を実施します。

【施設等への技術支援】

児童発達支援センター	事業所	保育所等	研修会	事業所 連絡会等	計
14 回	4 回	0 回	9 回	17 回	44 回

V 発達障害児（者）支援

平成17年4月1日施行された「発達障害者支援法」に基づき、こども医療福祉センター地域連携室相談支援班を発達障害者支援センター「しおさい」として位置づけ、発達障害児（者）及び家族等の支援を行っています（平成17年1月17日事業開始）。

平成28年5月の法改正により、発達障害児（者）やその家族等が身近な地域で支援が受けられるよう適切な配慮をするものと規定されたことから、地域支援体制の確立に向けて、「困難事例等への支援」や「支援機関の対応力の向上支援」などの専門的機能をさらに充実していく必要があります。

1. スタッフ

センター長（小児科医師）、副センター長（社会福祉職）
 専門幹（社会福祉職）1名、主任主事（社会福祉職）1名、相談支援員2名、
 地域支援マネジャー2名（平成26年度～）
 ※センター長及び副センター長はこども医療福祉センター職員が兼務。

2. 支援対象者

- ①ASD（自閉スペクトラム症）、SLD（限局性学習症）、ADHD（注意欠如・多動症）
 などの特有の発達障害を有する障害児（者）及びその家族
 ② ①の支援者および関係機関など

3. 業務内容及び実績

		(年度)	R5	R6	R7
1. 相談支援・発達支援 (※下記2.を除く全てのケース)	(1) 実支援人数・延支援件数	実人数	191	216	204
		延件数	481	740	668
	(2) 心理学的判定	実人数	8	9	3
	(3) 相談支援・発達支援に伴う情報共有（調整会議）	延件数	1	9	3
	(4) 相談支援・発達支援に伴う関係機関との連携	延件数	103	182	237
2. 相談支援・就労支援 (※就労支援に重点を置いた支援が行われたケース)	(1) 実支援人数・延支援件数	実人数	52	56	34
		延件数	469	547	334
	(2) 相談支援・就労支援に伴う情報共有（調整会議）	延件数	3	5	4
	(3) 相談支援・就労支援に伴う関係機関との連携	延件数	95	116	115
3. 機関コンサルテーション		延件数	70	61	19

○関係機関、民間団体等への研修（令和7年度）

研 修 名	内容(演題)等
発達障害相談支援 従事者育成研修 (初級) (オンライン開催)	開催日時：令和7年5月13日（火）10:00～16:20 対象：市町職員、県福祉事務所職員 ※ 障害福祉、母子保健、子育て支援、生活保護、労働等の発達障害児者支援に携わる部署の職員 内容：・発達障害の基本的理解—ちょっと気になる人たち— ・発達障害者支援センターの機能と役割 ・発達障害のある人に対する相談支援の基本 ・家族の体験談（ペアレントメンター2名）
発達障害相談支援 従事者育成研修 (中上級)	開催日時：令和7年8月21日（木）9:45～15:00 令和7年9月26日（金）9:30～15:00 令和7年10月28日（火）13:00～15:00 令和7年11月28日（金）13:00～15:15 対象：相談支援事業所、相談支援センター、障害者就業・生活支援センター、県保健所職員 内容：4回シリーズ ・国、県の発達障害者支援施策や取組み ・発達障害者支援センター「しおさい」について ・発達障害のアセスメントと支援の基本 ・強度行動障害のある方への支援の実例 ・就労や就労定着に向けての支援 ～大学での支援の実施～ ～障害者職業センターでの支援の実例～ ・発達障害と精神医療 ・地域における支援体制の構築
支援力向上 定期勉強会	開催日時：令和7年7月25日（金）13:30～15:30 令和7年10月24日（金）13:30～15:30 令和8年1月23日（金）13:30～15:30 対象：障害福祉サービス事業所職員 内容：3回開催・「発達障害の特性と対応の基礎」（講義） ・「事例検討会（不適応行動事例）」（グループワーク） ・「事例検討会（暴力行動事例）」（グループワーク）
研修会等への 講師派遣 (17箇所、18回) 参加総数565名	1. 相談支援事業所ウェルビー職員研修 令和7年5月23日（金） 5名参加 2. 鹿町工業高校教職員研修 令和7年6月12日（木） 37名参加 3. 長崎障害者就業・生活支援センター職員 令和7年6月19日（木） 19名参加 4. 県里親会研修 令和7年6月21日（土） 26名参加 5. 玉成高校教職員研修第1回目 令和7年6月27日（金） 52名参加 6. 県教育庁生涯学習課開催保護者向け研修 令和7年7月10日（木） 57名参加 7. 警察学校研修 令和7年8月13日（水） 62名参加

	8. 活水大学現地実習 令和7年8月26日（火） 12名参加 9. しらゆり保育園職員研修 令和7年8月26日（火） 13名参加 10.長崎工業高校教職員研修 令和7年8月29日（金） 45名参加 11.ペアレントメンター研修 令和7年9月6日（土） 32名参加 12.大村市自立支援協議会専門部会研修 令和7年9月18日（木） 41名参加 13.玉成高校教職員研修第2回目 令和7年11月26日（水） 47名参加 14.純心大学学生授業内研修 令和7年11月26日（水） 9名参加 15.長崎市地域保健課開催保護者向け研修 令和8年1月21日（水） 7名参加 16.児童発達支援センター職員向け研修 令和8年1月30日（金） 13名参加 17.さくらんぼ園保護者向け研修 令和8年2月18日（水） 36名参加 18.諫早市こどもデイネット（自立支援協議会こども部会）研修 令和8年2月26日（木） 52名参加
--	--

○普及啓発研修(令和7年度)

研 修 名	内容(演題)・講師等
しおさいセミナー	開催日時：令和7年11月22日（土）14：00～16：00 場 所：長崎県庁1階大会議室 115名参加 講 演：『僕は発達凸凹とともに、前向きに生きていく』 講 師：山田 隆一（発達障害当事者） 対 談 者：山田 隆一（発達障害当事者） 今村 明（長崎大学生命医科学域保健学科系作業療法分野教授）
しおさい ミニセミナー	講師の都合により開催中止

Ⅵ 栄養関係業務

入院児に対して各児の咀嚼能力や摂取能力に応じた形態別・栄養量別食事を提供しています。
(表①)

親子棟及び病棟入院児・外来患者に対する栄養指導（相談）を実施しています。（表②③）
季節の行事食及び年３回のお楽しみメニューを提供しています。（写真）

① 入院児の形態別・栄養量別食数（表①）

区分		令和４年度		令和５年度		令和６年度		令和７年度	
		月平均	年計	月平均	年計	月平均	年計	月平均	年計
※ 幼児食	常※	129	1,543	227	2,727	214	2,569	159	1,910
	粗※	114	1,369	32	384	37	448	35	419
	中※	80	963	25	295	73	880	27	324
	極※	13	154	9	109	29	345	9	105
	小計	336	4,029	293	3,515	353	4,242	230	2,758
※ 小児食（小）	常	150	1,803	177	2,123	150	1,799	72	864
	粗	39	467	33	397	47	562	36	431
	中	21	256	12	150	7	88	8	96
	極	0	0	7	83	39	470	15	179
	小計	210	2,526	229	2,753	243	2,919	131	1,570
小児食（中）	常	277	3,319	444	5,324	233	2,791	186	2,229
	粗	8	100	7	82	4	42	4	45
	中	37	448	3	38	2	21	6	66
	極	0	0	11	130	1	15	1	12
	小計	322	3,867	465	5,574	240	2,869	197	2,352
小児食（大）	常	365	4,380	419	5,035	574	6,892	539	6,463
	粗	0	0	10	116	0	0	0	2
	中	3	35	2	24	2	28	0	0
	極	5	61	0	0	2	20	1	17
	小計	373	4,476	431	5,175	578	6,940	540	6,482
常食計		1,241	14,898	1,418	17,017	1,414	16,970	1,098	13,162
特食	術後食	0	0	0	0	0	0	0	0
	カルシウム	0	0	0	0	0	0	0	0
	離乳食	25	297	3	40	4	49	5	58
	減量食	0	0	0	0	0	0	0	0
	ペースト・ソフト食	94	1,134	99	1,185	63	756	119	1,433
	貧血・造血食	0	0	1	6	0	0	0	0
	高脂血症	0	0	0	0	0	0	0	0
	高度肥満	43	510	45	544	46	547	3	37
	糖尿病食	0	0	0	0	0	0	0	0
	濃厚流動	4	52	0	0	0	0	0	0
	他	148	1,778	92	1,102	81	968	106	1,273
	特食計	314	3,771	240	2,877	194	2,320	233	2,801
絶食		82	980	15	179	103	1,238	94	1,132
外泊		393	4,710	457	5,492	475	5,701	352	4,228
合計		2,030	24,359	2,130	25,565	2,186	26,229	1,777	21,323

※注釈

○食形態分類

常（常食）：特に刻まない普通の食事

粗（あらきざみ）：1.5cm位の大きさ

中（中きざみ）：1cm位の大きさ、幼児用スプーンですくって食べられる程度

極（極小きざみ）：0.5cm位の大きさ

○幼児食は、幼児食(幼少)と幼児食(幼)の合計。

○小児食（大）には、小児食（特大）を含む。

※栄養基準による分類

区分	幼児食(幼少)	幼児食(幼)	小児食(小)	小児食(中)	小児食(大)	小児食(特大)
年齢の目安	1～2	3～5	6～9	10～11	12～15 女	12～18 男
				16～18 女		
エネルギー(kcal)	1100	1400	1600	1800	2000	2300
たんぱく質(g)	35	50	65	70	75	85
脂質(g)	30	40	50	55	60	70
糖質(g)	170	210	220	250	290	300
カルシウム(mg)	450	600	600	700	700	900
鉄分(mg)	5	6	8	9	10	10

②親子棟における栄養指導(相談)

親子棟入院児に対して、昼食時に管理栄養士が栄養指導(相談)を実施しています。同時に、調理員が調理方法や食事形態等の希望を聞き取り、食事作りに反映しています。

『おやつは、幼児にとっては第4の食事』という考えで、できるだけ手作りおやつを提供しています。

親子棟における栄養指導(相談)件数（実人員）（表②）

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R7 年度	3	10	9	9	6	12	9	10	7	9	8	10	102
R6 年度	10	5	10	7	5	9	6	7	10	5	8	9	91
R5 年度	8	6	7	11	8	10	10	4	6	6	10	14	100
R4 年度	10	9	9	14	13	7	13	4	8	10	10	11	118
R3 年度	8	2	9	10	10	8	11	8	9	8	8	8	99

③栄養指導(相談)

医師の栄養指導依頼票により、予約制で栄養指導を行っています。

外来患者及び病棟入院児への栄養指導(相談)件数(表③)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
栄養指導数	12	15	11	26	13

④行事食・お楽しみメニューの実施

節分・ひな祭・子どもの日・七夕など、行事にあわせ、季節を盛り込んだメニューを提供しています。また、1学期の遠足にお弁当、終業式にお楽しみメニュー、2学期の終業式にクリスマスメニュー、3学期のエール会にお祝膳を提供しています。

七夕のメニュー



お弁当



お楽しみメニュー



クリスマスメニュー



お祝い膳



VII 薬局・検査・X線撮影

I 薬局業務

- ①調剤 ②注射薬の供給 ③血液業務 ④外来・入所児の薬歴管理
 ⑤院内製剤 ⑥医薬品の品質管理 ⑦向精神薬・麻薬・毒薬の管理
 ⑧医薬品の発注 ⑨消毒薬の供給 ⑩医薬品の情報収集・提供

(1) 令和7年度月別調剤件数

区分	外来処方箋			入院処方箋			合 計		
	枚数	調剤数	延調剤数	枚数	調剤数	延調剤数	枚数	調剤数	延調剤数
4月	14	16	146	88	173	2,103	102	189	2,249
5月	11	14	284	93	176	1,850	104	190	2,134
6月	18	21	187	105	189	2,038	123	210	2,225
7月	15	17	84	119	227	2,984	134	244	3,068
8月	14	16	60	92	185	2,092	106	201	2,152
9月	8	9	95	112	182	1,914	120	191	2,009
10月	13	13	54	100	184	1,806	113	197	1,860
11月	9	10	64	79	162	2,005	88	172	2,069
12月	9	12	133	92	209	2,491	101	221	2,624
1月	9	11	42	67	159	2,088	76	170	2,130
2月	10	10	45	88	155	1,823	98	165	1,868
3月	11	12	98	80	155	2,151	91	167	2,249
計	141	161	1,292	1,115	2,156	25,345	1,256	2,317	26,637

(2) 令和7年度月別麻薬・注射箋・院外処方箋枚数

区分	麻薬処方箋	注射箋	院外処方箋
4月	0	5	832
5月	3	10	786
6月	1	12	818
7月	1	10	842
8月	1	8	730
9月	1	11	871
10月	3	11	877
11月	1	8	750
12月	1	9	873
1月	1	4	841
2月	0	7	787
3月	0	9	914
計	13	104	9,921

(3) 令和 7 年度血液使用状況

実績なし

(4) 年度別調剤件数等

区分	外来処方箋			入院処方箋			合計		
	枚数	調剤数	延調剤数	枚数	調剤数	延調剤数	枚数	調剤数	延調剤数
令和 3 年度	213	311	4,282	1,341	2,074	23,501	1,554	2,385	27,783
令和 4 年度	291	449	5,992	1,250	2,470	28,288	1,541	2,919	34,280
令和 5 年度	274	394	4,406	1,439	2,855	33,416	1,719	3,249	37,822
令和 6 年度	229	292	3,695	1,438	2,554	28,863	1,667	2,846	32,558
令和 7 年度	141	161	1,292	1,115	2,156	25,345	1,256	2,317	26,637

区分	麻薬処方箋	注射箋	院外処方箋 (a)	外来処方箋 (b)	院外処方箋率 (a/(a+b)*100)
令和 3 年度	40	124	9,206	213	97.7
令和 4 年度	31	128	9,547	291	97.0
令和 5 年度	13	118	9,932	274	97.3
令和 6 年度	25	112	10,026	229	97.8
令和 7 年度	13	104	9,921	141	98.6

2 臨床検査業務

生化学検査や血液検査などの検体検査は外部委託している。主な検査業務は次のとおり。

- 1) 脳波検査（覚醒及び睡眠賦活）
- 2) 心電図検査（自律神経検査を含む）
- 3) 脳波ビデオモニタリング検査
- 4) その他（感染症迅速検査、血球数・分類検査等
病棟にて実施のため検査科では実数把握できず）
- 5) 熱画像検査（機器老朽化廃棄のため実施していない）

（1）令和7年度 月別検査件数

検査項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
脳波検査	10	4	5	10	15	4	5	2	6	7	2	13	83
聴性脳幹反応	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
熱画像検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
誘発筋電図	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心電図	13	10	7	11	4	8	8	3	7	8	5	11	95
（I2誘導）	(9)	(5)	(4)	(3)	(2)	(6)	(5)	(0)	(5)	(3)	(2)	(5)	(49)
（CV R-R）	(4)	(5)	(3)	(8)	(2)	(2)	(3)	(3)	(2)	(5)	(3)	(6)	(46)
肺機能検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脳波病棟モニタリング	1	0	1	3	2	0	2	3	1	1	0	3	17
その他													
合計	24	14	13	24	21	12	15	8	14	16	7	27	195

（2）年度別検査件数

検査項目 \ 年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
脳波検査	108	105	117	104	83
聴性脳幹反応	0	0	0	0	0
熱画像検査	0	0	0	0	0
誘発筋電図	0	0	0	0	0
心電図	128	131	148	131	95
（CVR-R）	(54)	(67)	(89)	(59)	(46)
肺機能検査	0	0	0	1	0
脳波病棟モニタリング	14	27	30	20	17
その他	9	3	11	0	0
合計	259	266	306	256	195

3 X線撮影業務

(1) 年度別撮影等枚数

区 分 \ 年 度		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
一 般 撮 影		3,641	2,824	2,607	2,333	1,938
ポータブル	病 棟	31	7	31	4	5
	手術室	190	68	190	97	70
透 視		0	0	0	0	0
画像処理(CT除)		221	162	217	182	154
合 計		4,083	3,061	3,045	2,616	2,167

(2) 月別業務件数 (令和7年度)

(単位：件)

区 分 \ 月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
一般撮影		111	139	60	105	136	112	128	83	112	85	82	60	1,213
ポータブル	病 棟	0	0	0	1	2	0	1	0	0	0	0	1	5
	手術室	0	4	3	1	2	1	4	1	1	2	0	0	19
手術室(イメージ)		0	3	2	1	1	1	3	1	1	1	0	0	14
透 視		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
CT		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
画像処理(CT除く)		18	24	9	15	9	24	9	8	8	13	11	6	154
合 計		129	170	74	123	150	138	145	93	122	101	93	68	1,406

(3) 月別X線撮影部位別撮影枚数 (令和7年度)

(単位：回)

月別 区分			4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
単純撮影	胸 部	一 般	5	11	4	2	2	2	5	1	2	0	0	0	34
		ポータブル	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	1	4
	腹 部	一 般	4	4	1	0	1	1	0	0	0	0	1	0	12
		ポータブル	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	全 脊 椎	一 般	18	10	5	15	22	23	16	9	20	12	7	10	167
	骨盤～大腿	一 般	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	3
	骨盤～下肢	一 般	10	13	7	18	12	9	10	9	10	15	17	6	136
	肩 ～ 上 肢	一 般	0	0	0	2	2	2	0	0	0	0	0	2	8
	股 関 節	一 般	50	52	52	52	74	65	72	46	54	36	38	36	627
		ポータブル	0	10	10	2	10	0	10	0	0	10	0	0	52
	足 部	一 般	44	58	50	59	51	44	43	46	69	53	53	28	598
		ポータブル	0	4	4	0	0	0	2	2	0	0	0	0	12
	そ の 他	一 般	47	30	16	35	31	31	37	30	23	24	29	21	354
		ポータブル	0	0	0	0	0	2	2	0	1	0	0	0	5
透 視			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小 計		一般撮影	178	178	135	183	198	177	183	141	178	140	145	103	1,939
		ポータブル	0	14	14	3	12	2	15	2	1	10	0	1	74
合 計			178	192	149	186	210	179	198	143	179	150	145	104	2,013

VIII 心理業務

心理業務では、6名の心理士（常勤4名、非常勤2名）が、外来及び病棟・親子棟において心理検査、プレイセラピーやカウンセリング等の心理療法（非常勤1名は小児心療科中心）、思春期の集団心理教育（ソーシャル・スキル・トレーニング）を行っています。また、保護者に対しては、ペアレント・トレーニングの実施や、ペアレント・トレーニングに共通する中核的な内容の講話、子育てに関する心理相談を行っています。その他、医師、保育士等の他職種と連携しながら集団療育に従事したり、検査結果について、検査・評価報告書を作成しています。

① 年度別心理検査件数

（単位：件数）

年度\検査	遠城寺	田中ビネ	K式	WISC	WAIS	Vineland II	TOM	LD評価	K-ABC	その他	合計
R3年度	38	42	343	627	19	0	21	143	59	355	1,647
R4年度	18	28	418	610	11	0	20	118	55	346	1,624
R5年度	7	24	467	664	23	0	12	123	33	392	1,745
R6年度	12	24	482	610	14	0	10	96	37	341	1,626
R7年度	0	45	339	658	18	6	10	51	33	332	1,492

② 年度別心理療法・心理相談人数

（単位：人数）

年度\種別	心 理 療 法		心 理 相 談	
	計	（再掲） SST	計	（再掲） ペアトレ
R3年度	575	116	244	120
R4年度	568	100	262	143
R5年度	482	86	255	110
R6年度	556	155	260	123
R7年度	602	99	279	115

（注1）R3年度より、相談人数（延べ人数）で整理して計上。

（注2）R3年度より、「心理療法」の「（再掲）SST」を計上。「（再掲）SST」については、思春期の集団心理療法（ソーシャルスキルトレーニング等）と個別で実施したソーシャルスキルトレーニング等に参加した延べ人数を計上。

（注3）「心理相談」の「（再掲）ペアトレ」については、保護者に対して集団及び個別で実施した延べ人数を計上。尚、ペアレントメンター講習会に参加した保護者も含めて計上。

③ 検査・評価報告書（診療情報提供書）作成件数

年度\提供先	計（単位：件数）
R3 年度	772
R4 年度	850
R5 年度	920
R6 年度	1,026
R7 年度	941

（注１）R６年度より、診療情報提供書の名称を、検査・評価報告書に改名。

（注２）提供先は保護者に統一し、関係機関は保護者に提出した内容を共有。

研究・実習等

Ⅰ. 研究発表・講演・著作等

①医局部門

○小柳 憲司

書籍：「不登校の子どもを支える 家族・教師・医師のための対応ガイド」
新興医学出版社、東京、2025.5.25

○小柳 憲司

分担執筆：「小児の摂食障害」今日の治療指針 2026、23 小児科疾患
医学書院、東京、2026.1.1

○小柳 憲司

分担執筆：「消化器系の訴え」今日の小児治療指針（第 18 版）、19 精神疾患・心身医学的問題・
発達障害、医学書院、東京、2026.3.31

○小柳 憲司

講演：「学校に行けない子どもたちー不登校に関わる要因とその対応について考えるー」
令和 7 年度長崎玉成高校不登校研修会、長崎市、2025.4.4

○小柳 憲司

講演：「HPV ワクチンと機能性身体症状」
第 236 回筑後小児科医会セミナー、久留米市、2025.4.16

○小柳 憲司

講演：「使ってみよう漢方をー子どもの心身症治療ー」
県北小児科医会学術講演会、佐世保市、2025.5.8

○小柳 憲司

講演：「不登校の子どもにいかに関わるかー医療・教育・福祉の連携を通じて考えるー」
第 11 回子どもを地域で支える会・筑豊、飯塚市、2025.6.20

○小柳 憲司

講演：「発達に課題を抱える子どもと家族を理解するー良好な関係を築くためにー」
令和 7 年度西海市児童虐待防止対策研修会、西海市、2025.11.21

○小柳 憲司

講義：「これからの不登校支援を考えるー事例を中心にー」
学校心理士長崎支部 2025 年第 2 回研修会、大村市、2025.11.30

○小柳 憲司

講義：「不登校の子どもに寄り添う支援とはー発達障害児の困り感を知るー」

令和7年度広島県発達障害医療機関ネットワーク構築事業 発達障害コメディカル養成研修、東広島市、2025.12.7

○小柳 憲司

講義：「発達特性をもつ子の日常的つまずきへのプライマリ・ケアでのアプローチ」

日本小児科医会カウンセリング実習（広島）、広島市、2026.2.1

○小柳 憲司

講義：「診察室からの不登校支援」

令和7年度島根大学医学部附属病院子どもこころ診療部研修会、出雲市、2026.2.15

○小柳 憲司

講演：「学校に行けない子どもたちー不登校に関わる要因とその対応ー」

令和7年度雲仙市学校保健会研修会、雲仙市、2026.2.19

○小柳 憲司

講演：「起立性調節障害の臨床」

令和7年度安佐医師会学校保健部会研修会、広島市、2026.3.1

○森山薫 林田拓也 山下未央 松尾光弘

学会発表：「継続的な保護者支援により社会交流が可能となった自閉スペクトラム症兄妹例」
第67回日本小児神経学会学術集会、米子、2025.6.6

○Kitajima, T., et al.

論文：「Effects of inpatient treatment of adolescents with anorexia nervosa are associated with body representation: A monocentric pilot study」

Scientific Reports, 15, 2025.

<https://doi.org/10.1038/s41598-025-13222-w>

Inoue, T., OKitajima, T., et al.

論文：「A randomized clinical trial of remote group-based comprehensive behavioral intervention for tics」

European Child & Adolescent Psychiatry, 2025.

<https://doi.org/10.1007/s00787-025-02912-5>

Nagamitsu, S., OKitajima, T., et al.

論文：「Usefulness of interventions using a smartphone cognitive behavior therapy application for children with mental health disorders: Prospective, single-arm, uncontrolled clinical trial」

JMIR Formative Research, 9, e60943, 2025.

Ogiso, A., Inoue, T., OKitajima, T., et al.

論文：「Development and validation of the Internet Gaming Disorder Scale-9 Short Form Japanese version for children for early screening in elementary school children」

Frontiers in Child and Adolescent Psychiatry, 4, 1622000, 2025.

Oto, Y., Kitajima, T., et al.

論文：「Endocrine characteristics of 246 cases of childhood-onset anorexia nervosa in Japan: A single-center experience」

Cureus, 17(8), e91166, 2025.

○北島翼、長濱輝代、細澤麻里子、田中恭子

論文：「過去 10 年間の日本小児心身医学会雑誌における学術的研究の現状と課題」

『子どもの心とからだ』日本小児心身医学会雑誌 / 日本小児心身医学会編集委員会 編、34(3), 376-382, 2025.11

○北島翼、町肇、森山薫、宮崎睦子、小柳憲司

学会発表：「回避・制限性食物摂取症の再栄養治療過程で、統合失調症スペクトラム症状が顕在化した女児例」

第 28 回日本摂食障害学会学術集会、東京、2025.10.18

○北島翼、町肇、森山薫、宮崎睦子、小柳憲司

学会発表：「ARFID 治療開始後に体重増加への不安が顕在化した 13 歳例：臨床像の連続性に関する考察」

第 21 回日本小児心身医学会九州・沖縄地方会、沖縄、2026.3.15

○北島翼

講演：「子どもの心療・発達外来を通して家族関係やスティグマについて取り扱うこと」

第 99 回ながさき乳幼児精神保健研究会、長崎、2025.6.22

○北島翼

講演：「子どもの摂食症」

第 21 回長崎県小児保健学会、長崎、2026.2.20

○北島翼

講義：「睡眠や生活リズムが整いにくい子どもへの支援」

子どもの心の支援にかかわる高度人材育成プログラム、長崎大学子どもの心の医療・教育センター、長崎、オンライン・オンデマンド配信

○北島翼

講義：「ASD と強迫症——その違いと対応について——」（全 2 回）

Road、公益社団法人発達協会、東京、オンライン・オンデマンド配信

<https://hattatsu.socialcast.jp/>

○北島翼

分担執筆：「生物学的検査」

小児診療 Knowledge & Skill、子どものこころの診療—小児科医が挑む子どものこころの臨床—、p20-25、中山書店、東京、2026.3.17

作田亮一、大谷良子、井上建、○北島翼

分担執筆・編集：「小児摂食障害プライマリ診療の手引き」

厚生労働科学研究費補助金（令和 3－5 年度「摂食障害に対する標準的な治療方法、心理的アプローチと身体的アプローチとその研修の開発及び普及に資する研究」、令和 6－7 年度「摂食障害に対する効率的かつ効果的な治療方法及び支援方法の開発と実装化に資する研究」、研究代表者 中里道子）、小児治療ワーキンググループ、2025.10

②看護部門

○佐々木 亜由美：講義「発達障害をもつ小児と家族の看護」

長崎県立シーボルト校、長与町 R7.7.1

③リハビリ部門

○前田 隼、峰松由香、本嶋裕幸、琴岡日砂代：学会発表

「立位・歩行の安定を目的に親子入院を利用した痙性片麻痺を有する児の治療経験
—上田法治療アプローチによる下肢の痙縮緩和と筋力強化—」

第 35 回長崎県理学療法学会 長崎市 R7.6.29

○前田 隼：講義・実技指導「膜と結合組織」

上田法認定講習会上級コース／インストラクター育成コース

愛知県 R7.7.19～21

○前田 隼：座長「一般演題発表」

第 32 回日本上田法治療研究会学術集会 愛知県 R7.10.19

- 前田 隼：実技指導「第 66 回上田法治療認定講習会 第 47 回上田法認定講習会（多職種）」
「上田法認定講習会上級コース」
広島県 R7.11.22～24
- 前田 隼：講義「肢体不自由児の基本的なかかわり方」
地域療育従事者研修会（所内） R7.11.26
- 前田 隼：講師「症例検討会」
発達障害児地域医療体制整備事業 壱岐市 R7.12.25
- 峰松由香、前田隼、本嶋裕幸、琴岡日砂代：学会発表
「脳性麻痺患児の術後理学療法経過報告
歩行器・立位台の段階的サポート量減少プランに基づいた 1 症例」
第 35 回長崎県理学療法学術大会 長崎市 R7.6.29
- 井口 賢：講義「進行性疾患の児童・生徒へのアプローチ」
障害児等療育支援事業 長崎県立島原特別支援学校 R7.10.28
- 井口 賢：講義「発達を促すかかわり方」
地域療育短期実習（所内） R7.6.8
- 琴岡 日砂代：講義「作業療法総合実習 2」
長崎リハビリテーション学院 大村市 R7.4.5
- 琴岡 日砂代：グループ指導「日本感覚統合学会 認定講習会 B(解釈)コース」
日本感覚統合学会 大阪府 R7.7.19～20
- 琴岡 日砂代：講演「感覚調整が難しい子どもの理解とかかわり方」
あさひ福社会 りんごの木療育園 大村市 R7.7.26
- 琴岡 日砂代：実技指導「日本感覚統合学会 認定講習会 A(評価)コース」
日本感覚統合学会 福岡県 R7.9.12～15
- 琴岡 日砂代：講義「日本感覚統合学会 入門講習会基礎コース」
日本感覚統合学会 Web R7.11.5

- 琴岡 日砂代：講義「JMAP の解釈とプログラムの立案について」
発達障害児地域医療体制整備事業 対馬市 R7.11.13
- 琴岡 日砂代：講義「日本感覚統合学会 入門講習会基礎コース」
日本感覚統合学会 Web R8.1.18
- 琴岡 日砂代：講話「姿勢保持の弱さや ADL 面、対人やりとりが苦手な児に対する
アプローチ」
発達障害児地域医療体制整備事業 平戸市 R8.1.21
- 琴岡 日砂代：講演「シンポジウム 私の歩み（キャリアストーリー）」
長崎県作業療法士会 長崎市 R8.3.1
- 田島 玲悟：講話「発達障害児の特性とその理解について」
発達障害児地域医療体制整備事業 上五島町 R8.1.15
- 田島 玲悟：発表「発達障害児に対する OT グループの実践報告」
長崎県作業療法士会 長崎市 R8.2.28
- 小田 弘海：講義「こどもの行動と感覚統合」
地域療育従事者研修会（所内） R7.10.30
- 小田 弘海：講話「発達障害児の特性とその理解について」
発達障害児地域医療体制整備事業 島原市 R8.3.19
- 前田 智之：講義「生活を豊かにするための関わり方」
地域療育従事者研修会（所内） R7.11.26
- 喜々津 裕美：講義「ことばの発達について～島原半島の現状報告を含めて～」
第 113 回島原リハネット症例検討会（島原病院） R7.4.24
- 若松 みちえ：講義「当センターにおける言語訓練及び取組について」
南島原市こども支援部会（南島原市） R7.9.11

○藤田 紋美：講義「気になることもへの支援について」

～伝える言葉の大切さ（リフレーミング）～」

壱岐地域療育者研修会（壱岐振興局） R7.10.16

○若松 みちえ：講義「ことばの発達とコミュニケーション 関わりのポイントを押さえよう！

地域療育従事者研修会（所内） R7.10.31

○鶴畠 禎子：報告「情報提供書活用度アンケートの結果報告」

伝達講習会（所内） R7.12.10

○鶴畠 禎子：講義「ことばの発達とコミュニケーション 楽しいやりとりと食事のために」

地域療育従事者研修会（所内） R7.11.27

○喜々津 裕美：講義「摂食・嚥下について」

発達障害児地域医療体制整備事業 壱岐市 R7.12.18

○若松 みちえ：講義「評価Ⅰ：ことばの発達 ～ST 評価と治療的関わり～」

長崎県神経発達症診療ネットワーク登録医研修 オンライン R8.1.8

④地域連携室部門

地域支援班

○松浦 恵子：講義「こども医療福祉センターの概要および地域連携について」

南島原市保育会視察研修（所内） R8.2.17

○林田 茉莉：講義「集団療育について」

R7 年度児童発達支援センター等機能強化事業 研修会 R7.5.23、11.6

○林田 茉莉：講義「行動の理解と療育プログラム」

R7 年度地域療育短期実習（事業所コース）（所内）

R7.6.24、8.5、10.21、12.9、R8.2.3

○林田 茉莉：講義「超早期療育を通しての親子支援」

R7 年度地域療育短期実習（行政コース）（所内） R7.7.10、10.9

○林田 茉莉：講義「発達障害児の理解と支援」

R7 年度地域療育短期実習（保育所・幼稚園コース）（所内）

R7.7.22、9.9、11.11、R8.1.20

○林田 茉莉：講義「超早期療育と保護者支援」

R7年度児童発達支援センター等機能強化事業 研修会 R7.8.7

○林田 茉莉：講義「発達障害児の理解と支援」

R7年度児童発達支援センター等機能強化事業 研修会 R7.8.26

○林田 茉莉：講義「地域との連携・支援について」

地域療育従事者研修会（所内） R7.10.31

○林田 茉莉：講義「地域との連携・支援について」

R7年度時津町障害者等地域自立支援協議会こども部会 R7.11.18

○林田 茉莉：講義「保護者支援について」

R7年度児童発達支援センター等機能強化事業 研修会 R7.11.21

○林田 茉莉：講義「移行支援・福祉サービス」

R7年度児童発達支援センター等機能強化事業 研修会 R8.1.30

○林田 茉莉：講義「発達の気になる子の支援について」

南島原市保育会視察研修（所内） R8.2.17

⑤相談支援班

○中村 寛和：講義「発達障害の方への支援～支援者の在り方～」

就労移行定着復職支援ウェルビー長崎職員研修 長崎市 R7.5.23

○中村 寛和：講義「効果的な支援・配慮につなげる」

長崎県立鹿町工業高等学校職員研修 佐世保市 R7.6.12

○中村 寛和：講義「しおさいの事業概要と取り組み」

長崎障害者就業・生活支援センター職員研修 諫早市 R7.6.19

○松浦恵子、福本佐和子：講義「発達障害に関する正しい理解と発達障害の特性に配慮したかわり方」

令和7年度里親勉強会 大村市 R7.6.21

○福本 佐和子：講義「『卒業後の自立』をめざす特別教育の在り方」

玉成高等学校第1回目教職員研修 長崎市 R7.6.27

- 小柳 憲司：講義「発達障害の基本的理解－子どもの特性に応じた対応－」
県教育庁生涯学習課開催保護者向け研修 佐世保市 R7.7.10
- 中村 寛和：講義「発達障害について」
長崎県警察学校新人研修 長崎市 R7.8.13
- 中村 寛和：講義「発達障害を有する方への支援」
活水女子大学健康生活学部子ども学科（所内） R7.8.26
- 中村 寛和：講義「発達障害について理解しよう」
しらゆり保育園職員研修 長崎市 R7.8.26
- 福本 佐和子：講義「発達障害について理解しよう」
長崎県立長崎工業高等学校教職員研修 長崎市 R7.8.29
- 中村 寛和：講義「発達障害の理解と支援（相談機関の立場から）」
ペアレントメンターながさき新規養成研修 長崎市 R7.9.6
- 中村 寛和：講義「発達障害支援の方法」
大村市自立支援協議会専門部会研修 大村市 R7.9.18
- 福本佐和子、立野尚子、内海奈穂：講義と事例検討
「特性のある生徒への個々の支援と生徒支援における教職員が身に付けたい専門的指導について」
玉成高等学校第2回目教職員研修 長崎市 R7.11.26
- 中村 寛和：講義「発達障害の理解と対応について」
長崎純心大学林ゼミ 長崎市 R7.11.26
- 福本 佐和子：講義「発達障害の支援と対応方法を学ぼう」
長崎市地域保健課開催保護者向け研修 長崎市 R8.1.21
- 中村 寛和：講義「福祉サービスについて」
児童発達支援センター職員向け研修（所内） R8.1.30

○中村 寛和：講義「自立に向けて知っておきたい支援・サービスについて～就労、生活、自立後のこと一緒に考えてみましょう～」

さくらんぼ園保護者向け研修 長崎市 R8.2.18

○福本佐和子、立野尚子：講義「家族支援について」

諫早市こどもデイネット研修 諫早市 R8.2.26

⑥育成部門

○松瀬美穂、林田詩織：講義「当センターにおける幼児保育について」

地域療育従事者研修会 肢体不自由児編 R7.11.27

○丸田 潤：講義「超早期療育を通しての親子支援」

地域療育短期実習 行政コース（保健師等） R7.6.12

○丸田 潤：講義「保育所等訪問支援の現状と課題」

児童発達支援センター 7事業所 R7.7.2

○山口 都：講義「発達に特性がある子の理解と対応について」

令和7年度地域療育従事者研修会 小児発達編、R7.10.31

○丸田 潤：講義「保育所等訪問支援について」

諫早こどもデイネット職員研修会 R7.12.3

⑦心理部門

○大田 一人：講義「ネガティブな感情の理解と対応 感情コントロールの視点から」

障害児等療育支援事業（諫早東特別支援学校） R7.7.31

○大田 一人：講義「知的発達症と知能検査」

こどもの神経発達症診療ネットワーク登録医研修 R7.10.9

○大田 一人：講義「保護者支援について」

地域療育従事者研修会 小児発達編 R7.10.31

○大田 一人：講義「保護者支援について」

地域療育従事者研修会 肢体不自由児編 R7.11.27

2.実習受入(過去5年間)

職種	学 校 名	3 年 度	4 年 度	5 年 度	6 年 度	7 年 度
保育士	長崎大学					1
	活水女子大学	2	3	1	1	2
	長崎女子短期大学	2	2	2	2	2
	長崎短期大学	1	1	2		1
	長崎医療こども専門学校				1	
理 学 療法士	長崎大学医学部保健学科	3	3	2	2	2
	長崎リハビリテーション学院	4	3	3	2	1
	長崎医療技術専門学校	7	4	2	2	3
	こころ医療福祉専門学校	5	2	2	3	2
作 業 療法士	長崎大学医学部保健学科	2	2	2	2	7
	長崎医療技術専門学校	5	3	2	2	1
	長崎リハビリテーション学院	1	3	2	2	5
言 語 聴覚士	九州保健福祉大学	2	1	1	2	1
	国際医療福祉大学	1	2	1	2	2
	福岡国際大学		1			
	長崎リハビリテーション学院	3	3	5	2	1
公認心理師	長崎純心大学大学院				1	1
看護師	活水大学看護学部	43	70	30		
	活水大学子ども学科	3	8	7	14	10
	向陽高校衛生看護専攻科	23	40	39	39	37
	島原市医師会看護学校	33	38	44	34	24
	長崎大学医学部保健学科				4	4
合計		140	189	147	117	107

X 建物概要

1階
配置図



2階
配置図



【資料編】

(1) 入院患者数の推移

年 度	病床数	延患者数	1日平均 患者数	病床利用率
昭和47	160	55,937	152.8	95.5
48	160	52,406	143.6	89.7
49	160	47,876	131.2	82.0
50	160	45,648	125.1	78.2
51	160 (124)	44,477	121.5	76.0 (98.0)
52	160 (124)	44,513	122.0	76.2 (98.3)
53	160 (124)	35,731	97.9	61.2 (78.9)
54	160 (124)	34,774	95.3	59.5 (76.8)
55	160 (124)	34,149	93.3	58.3 (75.2)
56	160 (124)	33,759	92.5	57.8 (74.6)
57	160 (124)	36,916	101.1	63.2 (81.6)
58	160 (110)	37,961	104.0	65.0 (94.5)
59	160 (110)	33,552	91.7	57.3 (83.3)
60	110	32,483	89.0	80.9
61	110	30,919	84.7	77.0
62	110	32,688	89.6	81.4
63	110	31,442	85.9	78.1
平成元	110	31,027	85.0	77.3
2	110 (80)	28,346	77.7	70.6 (97.1)
3	110 (80)	26,629	73.0	66.3 (91.2)
4	110 (80)	21,907	59.9	54.4 (74.8)
5	110 (80)	23,756	65.1	59.2 (81.4)
6	110 (80)	24,400	66.8	60.8 (83.6)
7	110 (80)	23,862	65.4	59.4 (81.7)
8	110 (80)	23,086	63.1	57.3 (78.8)
9	110 (80)	22,538	61.7	56.1 (77.2)
10	110 (80)	21,323	58.4	53.1 (73.0)
11	110 (80)	18,840	51.6	46.9 (64.5)
12	110 (80)	18,960	51.8	47.1 (64.8)
13	60	17,387	47.6	79.4
14	60	17,853	48.9	81.5
15	60	15,722	43.1	71.8
16	60 (53)	13,708	37.5	62.4 (70.7)
17	60	14,918	40.9	68.1
18	60	16,315	44.7	74.5
19	60	15,086	41.2	68.7
20	60	14,437	39.6	65.9
21	60	13,364	36.6	61.0
22	60	13,226	36.2	60.4
23	60	14,179	38.7	64.6
24	60	13,373	36.6	61.1
25	60	12,635	34.6	57.7
26	60	12,475	34.2	57.0
27	60	13,239	36.2	60.3
28	60	12,951	35.5	59.1
29	60	12,346	33.8	56.4
30	60	11,060	30.3	50.5
令和元	60	12,433	34.0	56.6
2	60	11,596	31.8	52.9
3	60	10,756	29.5	49.1
4	60	8,622	23.6	39.4
5	60	9,425	25.8	42.9
6	60	9,317	25.5	42.5
7	60	7,599	20.8	34.7

(注1) 病床数は許可病床数で、() 内の数字は実働稼働病床数。

(注2) 病床利用率は許可病床数に対する利用率で、() 内の数字は実働稼働病床数に対する利用率。

(2) 外来患者数の推移

年 度	延 患 者 数		1日平均患者数	
	本 所	通園部	本 所	通園部
昭和47	2,607		8.8	
48	2,306		7.8	
49	2,823		9.5	
50	2,783		9.4	
51	3,130		10.5	
52	3,211		10.8	
53	3,959		13.3	
54	4,627		15.4	
55	5,749		19.4	
56	7,599		25.6	
57	8,395		28.3	
58	8,510	1,406	28.6	4.7
59	9,125	2,150	30.9	7.2
60	9,119	2,055	30.7	6.9
61	9,207	2,332	31.1	7.9
62	9,458	2,509	31.7	8.5
63	9,083	2,308	30.7	7.7
平成元	10,343	1,650	35.0	5.6
2	13,056	1,682	44.6	5.7
3	12,158	1,893	41.4	6.5
4	9,890	1,523	33.8	5.1
5	10,578	2,085	43.4	7.1
6	10,903	2,177	44.5	8.9
7	11,272	2,220	45.8	9.1
8	10,864	2,175	44.3	8.8
9	11,083	1,958	45.2	8.0
10	11,121	1,931	45.4	7.9
11	11,473	1,832	47.0	7.5
12	12,484	1,773	51.0	7.3
13	17,369	1,539	40.9	6.3
14	19,621	* 637	80.0	5.1
15	20,700		85.0	
16	20,812		85.6	
17	22,575		95.7	
18	24,636		100.6	
19	25,564		104.3	
20	25,995		107.0	
21	27,165		111.8	
22	27,025		110.8	
23	26,460		108.4	
24	26,620		109.1	
25	28,804		118.0	
26	28,317		116.1	
27	28,757		118.3	
28	29,200		120.2	
29	29,438		120.6	
30	29,461		120.7	
令和元	29,610		123.4	
2	29,872		121.4	
3	28,964		119.7	
4	29,585		121.7	
5	30,555		125.2	
6	30,978		128.5	
7	30,388		125.1	

(注) *は平成13年9月末で通園部廃止

のため、4～9月までの実績

(3) 入所・入院患者の病類別人員（毎年10月1日現在）～令和6年度（単位：人）

病類\年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
脳性麻痺	3	3	5		1	4
先天性股関節脱臼	4		2	4	3	
骨系統疾患	3	1	2		4	1
ペルテス病						
側わん症						
内反足	1	1	5			
二分脊椎		1				1
瘢痕拘縮						
大腿骨折後遺症		2				
大腿骨偽関節						
軟骨無形成症	2	1	1			
先天性脊椎骨端異形成症						
急性脳症後遺症	1					1
神経発達症		2				2
起立性調節障害			1	4	2	4
てんかん	2	3		1		1
気分障害	3			1	3	1
摂食障害	1	1	2	1	2	2
概日リズム睡眠・覚醒障害	1	2	3			2
その他	22	17	13	10	11	9
内、適応障害		14	11	9	8	7
内、その他の整形疾患		3	2	1	3	2
合計	43	34	34	21	26	28

(4) 入所・入院患者の在所期間別（毎年10月1日現在）（単位：人）

在所期間\年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
0～1年未満	43	34	34	21	26	28	28
1～2年未満							
2～3年未満							
3～4年未満							
4～5年未満							
5年以上							
計	43	34	34	21	26	28	28

(5) 入所・入院患者の年齢別（毎年10月1日現在）（単位：人）

年齢\年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
0～1歳未満			2				
1～2歳未満	2		1	1			
2～3歳未満	1	1				1	2
3～4歳未満	2				1	1	
4～5歳未満		2		1		3	
5～6歳未満	1	1	3	1		1	1
6～7歳未満	4			1	1	1	2
7～8歳未満	1		1		1		1
8～9歳未満	3		1	1			
9～10歳未満		2	1		1	1	1
10～11歳未満	1	1	4		2		2
11～12歳未満	1	1	2		1	4	2
12～13歳未満	3	4		1	1	5	3
13～14歳未満	3	5	4	4	3	3	2
14～15歳未満	11	9	9	8	11	6	9
15～16歳未満	9	6	4	3	3	2	2
16～17歳未満		1	1				
17～18歳未満					1		
18歳以上	1	1	1				1
計	43	34	34	21	26	28	28

(3) 入所・入院患者の病類別人員（10月1日現在）

新分類による（令和7年～）

病類\年度	令和7年度
神経発達症	2
自閉スペクトラム症	1
注意欠如多動症	
知的発達症	
全般的発達遅延（5歳未満）	1
発達性協調運動症	
限局性学習症	
言語症	
語音症（構音障害）	
児童期発達流暢症（吃音）	
その他の神経発達症	
小計	4
睡眠・覚醒障害	
不眠障害	
過眠障害	
睡眠不足症候群	
睡眠時随伴症	
概日リズム睡眠・覚醒障害群	1
その他の睡眠・覚醒障害	
小計	1
心的外傷・ストレス因関連症	
反応性アタッチメント症	
脱抑制型対人交流症	
心的外傷後ストレス症	
急性ストレス症	
適応反応症	1
その他の心的外傷・ストレス因関連症	
小計	1
食行動症・摂食症	
神経性やせ症 制限型	
神経性やせ症 むちゃ食い・排出型	
回避・制限性植物摂取症	2
神経性過食症	
むちゃ食い症	
その他の食行動症及び摂食症	
小計	2
社会的状況	
不登校状態	6
非虐待体験・マルトリートメント	
その他の特別な社会的状況	
小計	6
機能性疾患	
起立性調節障害	3
周期性嘔吐症候群	
機能的嘔気・機能的嘔吐	
機能的ディスペプシア	
過敏性腸症候群	
その他の機能的腹痛症候群	
機能的便秘症	
遺尿症・遺糞症・心因性頻尿	
一次性頭痛（片頭痛・緊張型頭痛）	
その他の機能性疾患	
小計	3
精神疾患	
抑うつ症群	1
不安症群（場面緘黙 以外）	
場面緘黙	
強迫症	
抜毛症・皮膚むしり症	
身体症状症	
機能性神経学的症状症（変換症）	
解離症群	
インターネットゲーム行動症	
その他の精神疾患（1～4以外）	
小計	1
神経疾患・遺伝性疾患・代謝性疾患	
てんかん	1
脳性麻痺	6
筋疾患	
神経変性疾患	
脳炎／脳症後遺症	
外傷性脳症／脳挫傷	
代謝性疾患	
骨系統疾患	
遺伝性疾患	
その他の神経・遺伝性・代謝性疾患	1
小計	8
その他	0
小児科分野合計	26
整形分野	
運動発達遅滞	
先天性股関節脱臼	
脊髄髄膜瘤・脊椎披裂症・髄膜瘤	
開排制限	1
ペルテス	
斜頸	
脊柱側弯症	
四肢奇形	
内反足	
X脚・O脚	
片麻痺・対麻痺	
骨形成不全	1
その他	
整形分野合計	2
総合計	28

(6) 外来患者の病類別延人員 旧分類による(～令和6年) (単位:人)

病類\年度		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
1	精 神 遅 滞	1,269	1,184	1,110	1,136	1,309	1,366
2	コミュニケーション障害	1,907	2,349	2,693	2,887	3,065	3,640
3	自閉症スペクトラム障害	4,102	4,636	4,086	4,041	3,955	4,007
4	注意欠陥多動性障害	6,406	6,518	5,932	5,391	5,516	5,547
5	学 習 障 害	236	235	155	179	164	195
6	発達性協調運動障害	422	300	282	301	298	444
7	運動発達遅滞	1,444	1,476	1,694	1,513	1,542	1,821
発達障害 小 計		15,786	16,698	15,952	15,448	15,849	17,020
8	先天性股関節脱臼	206	203	169	140	140	157
9	脊髄髄膜瘤・脊髄披裂症	385	265	219	232	243	254
10	開 排 制 限	846	1,017	1,083	912	956	985
11	ペ ル テ ス	50	37	63	46	34	23
12	斜 頭	29	22	25	14	9	8
13	側 わ ん 症	121	159	118	92	83	113
14	四 肢 奇 形	39	38	19	19	33	23
15	内 反 足	173	147	145	166	159	112
16	X 脚・O 脚	77	42	33	33	32	48
17	脳 炎 後 遺 症	132	163	128	116	112	118
18	片麻痺・対麻痺	132	130	102	97	104	107
19	骨 形 成 不 全	135	131	137	109	104	98
小児整形 小 計		2,325	2,354	2,241	1,976	2,009	2,046
20	気 分 障 害	136	122	128	103	106	100
21	不 安 障 害	264	189	145	142	114	106
22	摂 食 障 害	65	97	132	152	125	172
23	夜尿症・遺尿症	42	32	44	40	24	7
24	不 登 校	56	9	1	0	0	6
25	心 身 症	30	25	14	11	12	9
小児心療 小 計		593	474	464	448	381	400
26	て ん か ん	2,044	1,805	1,583	1,532	1,592	1,427
小児神経 小 計		2,044	1,805	1,583	1,532	1,592	1,427
27	脳 性 麻 痺	2,332	2,010	1,759	2,012	2,007	1,826
28	ダウン症・染色体異常	497	411	333	343	374	431
29	そ の 他	5,229	5,509	6,142	7,333	7,763	7,323
計		28,806	29,261	28,474	29,092	29,975	30,473

(注) この表と「(2) 外来患者数の推移」とは、集計方法の違いのため延患者数が一致しない部分がある。

(7) 外来患者の出身地別延人員 (単位:人)

出身地\年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
長 崎 市	3,306	3,396	3,384	3,503	3,544	3,468	3,312
佐 世 保 市	682	608	570	594	558	496	471
島 原 市	1,204	1,153	1,132	1,231	1,327	1,461	1,533
諫 早 市	12,471	12,939	12,276	12,532	12,898	12,959	11,954
大 村 市	4,805	4,672	4,586	4,505	4,943	5,455	6,056
平 戸 市	173	148	149	155	215	209	187
松 浦 市	102	131	115	110	128	99	93
対 馬 市	23	9	17	19	22	20	0
壱 岐 市	8	19	12	11	12	6	5
五 島 市	38	22	30	23	26	47	22
西 海 市	176	177	169	226	220	188	201
雲 仙 市	2,515	2,743	2,912	2,908	2,939	2,845	2,757
南 島 原 市	1,286	1,297	1,381	1,431	1,348	1,326	1,362
西 彼 杵 郡	664	723	702	732	826	926	944
東 彼 杵 郡	776	730	672	701	624	645	618
北 松 浦 郡	65	62	39	31	29	24	24
新 上 五 島 町	4	18	12	22	26	21	21
他 県	423	298	248	294	226	255	250
職 員	85	116	68	64	64	23	12
計	28,806	29,261	28,474	29,092	29,975	30,473	29,822

(注) この表と「(2) 外来患者数の推移」とは、集計方法の違いのため延患者数が一致しない部分がある。

(6) 外来患者の病類別延人員 新分類による(令和7年～)

病類 \ 年度		令和7年度
神経発達症	自閉スペクトラム症	4,825
	注意欠如多動症	5,206
	知的発達症	1,815
	全般的発達遅延（5歳未満）	719
	発達性協調運動症	371
	限局性学習症	112
	言語症	2,398
	語音症（構音障害）	388
	児童期発達流暢症（吃音）	64
	その他の神経発達症	68
小計		15,966
睡眠・覚醒障害	不眠障害	97
	過眠障害	0
	睡眠不足症候群	0
	睡眠時随伴症	7
	概日リズム睡眠・覚醒障害群	166
	その他の睡眠・覚醒障害	0
小計		270
心的外傷・ストレス因関連症	反応性アタッチメント症	303
	脱抑制型対人交流症	11
	心的外傷後ストレス症	23
	急性ストレス症	5
	適応反応症	381
	その他の心的外傷・ストレス因関連症	7
小計		730
食行動症・摂食症	神経性やせ症 制限型	150
	神経性やせ症 むちゃ食い・排出型	0
	回避・制限性植物摂取症	221
	神経性過食症	5
	むちゃ食い症	2
	その他の食行動症及び摂食症	20
小計		398
社会的状況	不登校状態	1,297
	非虐待体験・マルトリートメント	82
	その他の特別な社会的状況	24
	小計	1,403
機能性疾患	起立性調節障害	509
	周期性嘔吐症候群	0
	機能的嘔気・機能的嘔吐	0
	機能的ディスペプシア	13
	過敏性腸症候群	50
	その他の機能性腹痛症候群	12
	機能的便秘症	0
	遺尿症・遺糞症・心因性頻尿	22
	一次性頭痛（片頭痛・緊張型頭痛）	12
	その他の機能性疾患	39
小計		657
精神疾患	抑うつ症群	237
	不安症群（場面緘黙 以外）	701
	場面緘黙	210
	強迫症	106
	抜毛症・皮膚むしり症	24
	身体症状性	78
	機能的神経学的症状性（変換症）	20
	解離症群	23
	インターネットゲーム行動症	17
	その他の精神疾患（1－4以外）	65
小計		1,481
神経疾患・遺伝性疾患・代謝性疾患	てんかん	1,791
	脳性麻痺	1,876
	筋疾患	129
	神経変性疾患	0
	脳炎／脳症後遺症	158
	外傷性脳症／脳挫傷	9
	代謝性疾患	0
	骨系統疾患	61
	遺伝性疾患	581
	その他の神経・遺伝性・代謝性疾患	128
小計		4,733
その他		137
小児科分野合計		25,775
整形分野	運動発達遅滞	715
	先天性股関節脱臼	129
	脊髄髄膜瘤・脊椎披裂症・髄膜瘤	173
	開排制限	643
	ペルテス	14
	斜頸	2
	脊柱側弯症	39
	四肢奇形	53
	内反足	91
	X脚・O脚	52
	片麻痺・対麻痺	94
	骨形成不全	101
	その他	1,941
整形分野合計		4,047
総合計		29,822

(8) 手術実績

①令和7年度病名別手術件数

(単位：件数)

病名\月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
脳性麻痺		2	1		1	1	2	1	1				9
先天性股関節脱臼		1		1						1			3
先天性内反足													0
ペルテス病													0
二分脊椎													0
先天異常(骨系統・代謝・奇形)							1						1
外傷													0
その他													0
計	0	3	1	1	1	1	3	1	1	1	0	0	13

②手術件数の推移

(単位：件数)

年度\月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2	5	7	6	7	7	2	11	8	2	6	3	8	72
3	6	6	8	8	9	5	11	7	6	6	7	6	85
4	6	3	6	11	5	6	5	5	6	10	6	8	77
5	7	6	9	11	2	5	8	4	4	7	8	11	82
6	8	6	15	10	11	6	10	7	5	7	5	11	101
7	4	3	6	8	3	8	4	10	4	5	4	6	65
8	6	6	7	7	6	3	6	9	6	5	2	5	68
9	3	4	2	5	6	4	7	6	3	3	4	10	57
10	4	3	6	9	8	6	8	4	7	7	6	5	73
11	3	5	6	7	5	1	7	5	7	5	7	9	67
12	5	4	5	7	6	6	10	8	3	5	8	3	70
13	6	6	4	10	5	8	9	7	5	7	5	8	80
14	5	5	5	11	10	4	6	7	6	10	3	4	76
15	7	9	7	12	6	5	6	6	3	6	4	7	78
16	8	8	5	11	7	10	4	9	10	4	5	8	89
17	5	3	5	11	3	7	3	8	8	7	2	7	69
18	6	4	8	9	11	8	8	6	8	4	6	5	83
19	3	7	6	8	8	5	8	10	6	6	10	6	83
20	2	9	3	8	6	4	6	5	10	6	6	3	68
21	3	5	6	8	12	6	9	5	5	6	3	8	76
22	8	7	7	8	4	7	3	3	8	7	7	2	71
23	5	1	8	9	8	6	2	3	7	4	2	8	63
24	3	7	4	11	9	7	8	11	3	7	4	6	80
25	8	6	9	3	10	8	9	3	6	8	4	7	81
26	5	5	7	10	12	9	8	5	6	8	9	9	93
27	1	4	5	10	6	7	7	6	5	3	8	9	71
28	9	8	6	7	11	6	9	4	2	4	2	5	73
29	2	4	4	6	10	6	3	5	3	5	3	7	58
30	4	4	3	8	6	1	1	6	3	2	4	3	45
令和元	2	4	3	5	5	3	2	5	2	3	3	5	42
2	2	1	4	3	4	3	2	3	2	5	5	4	38
3	1	2	5	5	5	2	5	4	2	4	2	4	41
4	3	4	1	2	6	1	3	3	4	3	1	0	31
5	0	2	1	1	1	1	1	1	3	0	0	2	13
6	0	1	3	2	3	2	2	1	2	3	2	2	23
7	0	3	1	1	1	1	3	1	1	1	0	0	13

(9) 訓練指導件数

(単位：延件数)

訓練内容\年度		28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
脳血管疾患等 リハビリテーション	外来	25,509	23,640	24,006	26,659	27,773	24,217	24,578	25,052	26,214	25,027
	入院	8,105	9,294	8,277	10,615	9,283	9,512	10,756	8,570	8,888	8,364
運動器 リハビリテーション	外来	184	249	217	243	313	404	408	351	439	359
	入院	1,795	2,630	1,912	2,771	2,906	2,041	1,078	1,914	1,852	1,268
障害児(者) リハビリテーション	外来	72	69	90	69	83	28	53	40	83	70
	入院	4	2	0	0	0	22	12	9	0	0
摂食機能療法	外来										
	入院	296	285	250	289	319	457	521	603	375	427
通院精神療法	外来	13,482	14,600	14,387	14,404	16,283	17,153	18,233	19,358	19,443	19,191
通院集団精神療法	外来	23	28	19	31	73	40	31	21	43	25
心身医学療法	外来										
てんかん指導	外来	1,156	1,174	1,013	704	18	974	1,348	1,391	1,340	1,233
小児運動器疾患指導	外来			91	37	34	135	291	206	152	127
小 計	外来	40,426	39,760	39,823	42,147	44,577	42,951	44,942	46,419	47,714	46,032
	入院	10,200	12,211	10,439	13,675	12,508	12,032	12,367	11,096	11,115	10,059
合 計		50,626	51,971	50,262	55,822	57,085	54,983	57,309	57,515	58,829	56,091

(10) 入所者の要介護の状況

(単位：人)

区 分		28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
食 事	全 介 助	3	3	4	8	5	4	3	5	4	6
	部分介助	1	0	2	4	1	1	2	2	3	1
	自 立	26	31	21	31	28	26	16	19	19	20
排 泄	全 介 助	4	4	4	12	5	6	5	7	6	6
	部分介助	7	3	4	2	4	2	0	5	2	3
	自 立	19	27	19	29	25	23	16	14	18	18
衣 服 着 脱	全 介 助	3	4	5	11	5	6	4	7	6	6
	部分介助	3	0	2	3	5	1	1	5	0	3
	自 立	24	30	20	29	24	24	16	14	20	18
保 清 入 浴	全 介 助	6	4	5	11	5	5	5	7	6	6
	部分介助	5	2	2	3	6	2	0	5	0	5
	自 立	19	28	20	29	23	24	16	14	20	16
移 動	全 介 助	3	4	2	11	5	5	4	7	6	6
	部分介助	3	4	5	3	2	1	1	5	1	3
	自 立	24	26	20	29	27	25	16	14	19	18
移 乗	全 介 助	5	4		11	7	6	4	7	6	6
	部分介助	4	5	5	3	1	0	1	5	2	3
	自 立	21	25	20	29	26	25	16	14	18	18
言 語	全 介 助	3	2	2	6	5	4	4	5	4	4
	部分介助	2	1	1	4	6	2	1	4	2	3
	自 立	25	31	24	33	23	25	16	17	20	20
理 解	全 介 助	3	3	2	6	5	4	4	4	4	4
	部分介助	2	1	1	4	1	2	1	3	2	3
	自 立	25	30	24	33	28	25	16	19	20	20
入 所 実 人 員		30	34	27	43	34	31	21	26	26	27

(注1) 10月1日現在の在院児

(注2) 評価法は3段階とする。

全介助：FIM（機能的自立度評価法）2～1

部分介助：FIM 5～3

自立：FIM 7～6

(注3) 「排泄」はFIMの「トイレ動作」と「排泄コントロール」を合わせる。

(注4) 母子入所児を含む。

(11) 障害児等療育支援事業（実績）

（単位：件）

事業名 年度	①訪問療育相談支援事業		②外来療育相談 支援事業	③地域生活特別 支援事業	④地域療育支援事業 (会議、研修、実 習、講座)	⑤施設への技術支援事 業（職員派遣、見学受 け入れ等）
	巡回療育相談	関係機関訪問				
H24	423	64	255	9	8	435
H25	368	72	517	7	8	335
H26	335	68	677	3	7	325
H27	300	59	459	6	9	234
H28	306	45	315	4	9	269
H29	261	55	331	7	9	290
H30	258	42	354	14	9	282
R元	222	55	261	22	9	254
R2	112	6	309	8	2	171
R3	186	21	610	20	7	133
R4	179	15	527	9	33	127
R5	139	11	652	15	33	139
R6	152	17	738	28	39	156
R7	140	18	639	27	29	149

(12) 医療等従事者（有資格者）研修（実績）

職 種	機 関 名	令和7年度	
		実人数	延日数
理学療法士	鈴木病院	1	1
作業療法士	児童発達支援センター星のくま	1	1
	菊池病院	1	1
	大村市民病院	1	3
言語聴覚士	小浜温泉病院	1	3
	鈴木病院	1	1
計		6	10

(13) 令和7年度障害児(者)巡回療育相談実施状況(一覧表)

保健所名	実施日	相談日数	相談数			判定計	判定（一部重複判定あり）								医局		リハビリ			総務（運転）	地域連携 心理班室	関係機関							訪問相談		意見交換会、研修会等		
			新	継	計		A 要入院 予定は	B 外来治療中	C センター受診が必要	D 巡回相談の 観み察で	E 他機関 必須利用 要観利用	F （重・機連 絡）	G 終了	整形Dr	小児Dr	PT	OT	ST	保健所			市町	医療機関	幼稚園・ 保育園・ 学校・保 幼	学 者	療育関係 者	その他	件数	スタッフ	概要	参加者	計	
健 県 所 北 保	① 9/8(月)～10(水)	3	13	3	16	22	0	0	6	0	3	6	7				浦	喜々津	原田	田中	○	○	○	○	○		0						
	② 1/21(水)～22(木)	2	8	6	14	15	0	0	6	0	0	1	8				小田	藤田	原田	大田	○	○		○	○		0						
小計		2	5	21	9	30	37	0	0	12	0	3	7	15													0					0	
五 島 保 健 所	① 6/12(木)～13(金)	2	1	8	9	10	3	0	0	0	6	1	0	二宮		本嶋			原田	吉川	○	○	○	○	○		2	訪問リハビ リス スタッフ 他	五島中央病院との合同カンファレンス	保健所職員、市職員、医療機関従事ス タッフ	1		
	② 7/15(火)※日程短縮	1	2	0	2	3	0	0	0	0	0	1	2				前田	若松	原田	臼井	○	○		○			0						
	③ 9/25(木)～26(金)	2	1	8	9	12	0	0	0	0	8	3	1	川口		本嶋			原田	吉川	○	○	○	○	○		2	保健所、五島 市職員、訪問 リハビリス スタッフ	五島中央病院との合同カンファレンス	保健所職員、市職員、医療機関従事ス タッフ	9		
	④ 12/10(水)※日程短縮	1	2	0	2	2	1	0	1	0	0	0	0				前田	若松	原田	田中	○	○		○			0						
小計		4	6	6	16	22	27	4	0	1	0	14	5	3													4					20	
上 五 島 保 健 所	① 6/19(木)～20(金)	2	5	8	13	14	0	0	0	0	13	1	0	川口		井口			原田	梯	○	○	○	○	○		0						
	② 8/20(水)～22(金)	3	5	9	14	21	1	0	1	2	2	7	8		町		田島	鶴嵩	原田	大田	○	○	○	○	○		0						
	③ 10/8(水)～9(木) ※日程短縮	2	1	11	12	14	0	0	0	0	9	2	3	二宮		井口			原田	梯	○	○	○	○	○		0						
	④ 1/14(水)～16(金)	3	7	10	17	20	1	0	0	1	0	3	15		北島		田島	鶴嵩	原田	臼井	○	○	○	○	○		0						
小計		4	10	18	38	56	69	2	0	1	3	24	13	26													0						
杵 岐 保 健 所	① 6/6（金）	1	2	0	2	3	0	0	0	0	0	1	2		山下		山縣	藤田	原田	大田	○	○		○	○		0						
	② 7/30(水)～31(木)	2	0	9	9	10	0	0	0	1	8	1	0	二宮		前田			原田	松浦	○	○	○	○		○	1	訪問看護頭リ ハ、杵岐市、 保健所、補装 具業者他					
	③ 10/16(火)※日程短縮	1	4	0	4	6	0	0	1	0	0	2	3		町		山縣	藤田	原田	臼井	○	○	○	○	○		0		杵岐地域療育研修会「気になる子どもの支援につい て～伝える言葉の大切さ（リフレーミング）～」	市内保育所・幼稚園・認定こども園、放 デイ、杵岐こどもセンター職員他	28		
	④ 12/5(金)※日程短縮	1	1	4	5	5	0	1	1	1	2	0	0	川口		兼俣			原田	松浦	○	○		○	○	○	0						
小計		3	5	7	13	20	24	0	1	2	2	10	4	5													1					28	
対 馬 保 健 所	① 6/26(木)～27(金)	2	1	4	5	5	0	0	0	0	0	0	5		宮崎		小田	喜々津	原田	田中	○	○	○	○	○		0						
	② 8/28(木)※日程短縮	1	0	2	2	3	0	0	0	0	2	1	0	川口		緒方			原田	太田	○	○	○	○			0						
	③ 11/13（木）～14(金)	2	3	0	3	3	0	0	0	0	0	0	3		宮崎		小田	喜々津	原田	太田	○	○		○	○		0						
	④ 1/30(金)※日程短縮	1	0	2	2	2	0	0	0	0	2	0	0	二宮		峰松			原田	太田	○	○	○	○			0						
小計		4	6	4	8	12	13	0	0	0	0	4	1	8													0					0	
	令和7年度 実績数 18回	32	56	84	140	170	6	1	16	5	55	30	57														5		3回			48	
	令和6年度 実績数 17回	36	68	84	152	192	6	1	16	5	55	37	65														6		3回			54	
	令和5年度 実績数 18回	38	58	81	139	159	0	0	8	29	45	19	51														3		4回			202	
	令和4年度 実績数	38	80	99	179	202	7	0	6	27	48	22	91														2		3回			41	
	令和3年度 実績数	41	74	112	186	206	0	0	0	14	69	20	68														1		2回			26	
	令和2年度 実績数	20	40	72	112	129	0	0	21	9	46	18	35														0		5回			179	
	令和元年度 実績数	40	84	138	222	250	4	0	27	45	66	28	80														1		10回			157	